

**SAGAMIHARA
JUNIOR CHAMBER, Inc.
30th ANNIVERSARY**



自然・情熱

SAGAMIHARA JC 30th ANNIVERSARY

川 = 相模川本流に隣接し上流には、
津久井・相模湖をもち
水資源の豊富なまち

緑 = 丹沢大山国定公園を背景に
相模野の広い台地を有する
自然に恵まれたまち

情熱 = 活気とにぎわい
そして個性ある豊かなまち



316



入会認承証

第三六号

相模原青年会議所

貴青年会議所を日本青年
会議所正会員として入会を
認承致します

一九六六年四月二日

社団法人日本青年会議所

会頭 辻兵吉

JC宣言

変革の能動者たらんとする青年として
個人の、真に豊かな生活の実現を通して
自立した、快適で活力ある地域を創造し
自由と公正を保障する国家を基盤として
世界の平和と繁栄に貢献し
地球上のすべての人と
共に生きることを誓う

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての
英知と勇氣と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう。

The Creed Of Jaycees International

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpos to human life ;

That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won
by free of men through free enterprise ;

That government should be of laws
rather than of men ;

That earth's great treasure lies in
human personality ; and

That service to humanity is the best
work of life.

神を信ずることは人生の意義と目的をわれわれに与える；

人類の同胞愛は国家の主権に優先する；

経済的主義は自由人による自由企業によって最もよく達せられる；

統治は人によって左右されず法によるべきである；

地上最大の宝は各人の人間性にある；

人生最善の仕事は人類に対する奉仕である；



Faded text centered between the two portraits, likely identifying them.

ごあいさつと皆さまからの声 (Welcome and your voices)

Main body of faded text, likely the introductory message and feedback section.

CONTENTS

ごあいさつ	4
祝 辞	7
JC HISTORY	18
JC NOW	50
会員名簿	70
特別会員名簿	80



社団法人相模原青年会議所
理事長 角尾 彰央

30周年を迎え、さらなる飛躍を誓って

私たちの相模原青年会議所は1965年に市内の青年有志によって発足、翌1966年に日本青年会議所より認証番号316号を授与され、正式に設立いたしました。

そして本年、おかげさまをもちまして30周年を迎えることになりました。今、私たち相模原青年会議所がこうして活動することができるのも、地域の皆様をはじめ行政の皆様に支えられ、また育てていただいたおかげと痛感しています。心より感謝申し上げます。そしてまた、この30年間に築き上げてこられた諸先輩方の皆様にも心より御礼を申し上げます。

振り返りますと、この30年間というもの、相模原青年会議所は「明るい豊かなまちづくり」を合い言葉に様々な事業を展開してまいりました。そこには諸先輩方が築いてこられた輝かしい業績があると同時に、常にその時その時の社会の情勢を踏まえながら、より良い活動を継続していくための試行錯誤、努力があったように感じております。もちろん現在も同様で果たして私たちが追求しなければならない「明るい豊かなまちづくり」とは一体どのようなものなのか、そのことに関してメンバー一同で激論を戦わせています。その明確な答えはなかなか出せませんが、少なくともメンバー同士の会話の中は、このふるさと相模原を自分たちの手でより豊かなまちにしようという熱意にあふれていると感じています。そして今日の情勢を考えると、物質的豊かさより心の豊かさを追求してこそ、私たちの相模原が本当に明るい豊かなまちになるという共通認識を持っております。

こうしたことから私たちは、社会情勢を正確に見る目を養いつつ、青年会議所の三信条である「奉仕」つまり社会開発、「修練」つまり自己開発に力を入れるとともに、「友情」をもって、地域のために一つでも多くのアクションを起こそうと、メンバー一同、一生懸命に努力しています。

私たち相模原青年会議所は、ふるさと相模原をこよなく愛するという志を同じくする者の集団です。これからも相集い、力を合わせ、すべての物に感謝し、互いを思いやる心を大切にしながら、楽しい運動を展開し、さらなる飛躍を目指してまいります。

結びにあたり、皆様のご健勝をお祈り申し上げるとともに、どうぞ相模原青年会議所への温かいご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、30周年のあいさつといたします。

社団法人相模原青年会議所
30周年実行委員長
細谷 政幸



ごあいさつ

高度成長期の1965年に産声を上げ、相模原ロータリークラブのご協力をいただき、また（社）川崎青年会議所のスポンサーによって翌年、日本青年会議所より316番目の青年会議所として誕生致しました。

創立以来、我々の運動に対し温かく見守り、そして協力をいただいたOB・市民・行政・関係諸団体のお蔭で、本年ここに（社）相模原青年会議所創立30周年を迎えることができましたことに心より感謝申し上げます。

これも、数多くの諸先輩方の地域に対する熱い思いと、明るい豊かな街づくりのために、常に地域と共に歩み、市民と共に歩んできた結晶だと思います。

「ふるさとづくり」をテーマとし第1回からまつりの中核的立場で参加し、本年22回を終えた市民まつりや、時代背景をとらえ市民に共感を得てきた数々のチャリティショー、そして近年では、今日まで培われてきた自然の尊さを人と自然と文化の調和が浸透するようにと、行なった緑に対しての啓蒙運動など市民の方々に確かなものとして訴えて参りました。

本年7月には記念事業として、緑の大切さと自然とのかかわりをテーマにし、今後の運動指針となるべく、継続性を持った（第1回わんぱくグリーンフェスティバル）を麻溝公園で開催させていただきました。

10年前に成人式を終え、成熟期の我々青年会議所のひとつのバロメーターとして、街を興す責任ある世代として、企業人として、30周年を契機に今までの実践を更に掘り下げ、今後の運動展開を考えた中で「相模原の変革を更に実践する青年として、また自立・共生・創造を兼ね備えた新たな視野に立ち地域に根差した、地域とともに歩む」事業が必要だと思います。

人は地域を創り・地域は人を育てる・その地域が固有の文化を生み・更にその文化を育てる人を創る、そんなJ.Cでありたいと思います。

社会も経済も大きな転換期を迎えている現在、様々な価値観が多様化している中で、30周年記念式典を更なる飛躍の一步としてとらえ、40周年に向かう一つの指針として今後も運動をして行く所存でありますので、今後とも（社）相模原青年会議所に皆様方のあたたかいご支援、ご協力をお願い申し上げます。



神奈川県知事
岡崎 洋

ごあいさつ

社団法人相模原青年会議所が創立30周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

皆様の青年会議所は、昭和40年の誕生以来、若いエネルギーを結集しつつ、「明るい豊かなまちづくり」を基本理念に掲げ、さまざまな地域活動を積極的に展開してこられました。

なかでも、近年では、相模川の美化運動をはじめとして、環境問題への取り組みに力を注ぎ、昨年度は「クリーン大作戦LOVE相模原'94」を主催され、多くの市民の方々のご参加のもと、大成功を収められたと伺っております。

私自身、知事就任以前より環境問題に携わっておりますが、環境政策を本当の意味で効果的に推進していくためには、一人ひとりの市民が日常生活の中で絶えず環境を大切にしようとする意識を育てていくことが何よりも重要であると考えております。それだけに、相模原J.Cの皆様が市民参加型の運動を展開されていることはたいへん心強い限りです。

あと5年余りで21世紀を迎えますが、この素晴らしいふるさと神奈川をより良いものにして行くためには、皆様が青年会議所活動を通じて実践しておられますように、常に「変化への挑戦」に取り組んで行かなければなりません。そこで、私としては、現実を直視しつつ、これから起こるであろう変化を先取りしながら、着実に県政を推進して行きたいと考えております。

しかし、神奈川経済を取り巻く環境は、対外経済関係やこのところの急激な円高の影響もあって、決して楽観は許されません。地域経済の活性化は県政の最重点課題であり、公共投資の確保、中小企業の経営安定と構造転換への支援、雇用対策の充実強化等を軸に、魅力ある地域産業の育成など活力ある地域経済を築くための取り組みを一層強めて行きたいと存じます。

もとより、こうした施策を実効性あるものとするためには、地域経済の若き担い手である皆様方をはじめ、産業界の方々のご理解、ご協力が不可欠です。今後とも、県政のより良い発展のために、皆様の温かいお力添えを頂戴できれば幸いです。

このたびの30周年を契機として、これからも若い勇気と英知を結集されて、表情豊かな地域の振興にご尽力くださいますようお願い申し上げます。

最後に、社団法人相模原青年会議所のますますのご発展と会員の皆様の一層のご活躍を心からお祈りして、お祝いのことばとさせていただきます。



相模原市長

館盛 静光

お祝いのことば

(社)相模原青年会議所が創立30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

会員皆様には、各界で幅広い御活躍をされるとともに、市民まつりをはじめとする地域振興事業に参加協力をいただくなど、日ごろから市政進展のため力強い御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、ここに、創立30周年という節目を迎えられましたことは、まさに、貴会議所が、市政伸展とともに歩まれた輝かしい成果であり、歴代理事長をはじめ会員皆様の御熱意と惜しみない御尽力に対し深く敬意を表する所でございます。

おかげをもちまして、相模原市は、昨年、市制施行40周年の節目を経て、首都圏の広域中核都市として躍動感あふれる力強い歩みを続けておりますが、更なる飛躍と発展をめざして、着実なまちづくりに取り組んでおります。年々、街の様子は変化しておりますが、市民皆様とともに築きあげてきた郷土相模原を更に魅力あるふるさととして次代に引き継ぐことが私たちの責務であると思っております。来るべき21世紀を考えると、道路や下水道など都市基盤の整備や高齢化社会への対応、教育文化への取組み、自然とのふれあいを高める環境づくりなど一層の充実が求められております。

こうした人と自然に優しい明日の住み良いふるさとづくりに向けて、市民の平均年齢34歳という若さと可能性に満ちた相模原市を支える大きな力として、会員皆様の若さあふれる英知と情熱が大切なときであり、身近な地域の問題を自らが考え行動され、奉仕の精神をもって活力ある豊かなまちづくりに邁進される皆様のますますの御活躍を期待しております。また、この意義ある創立30周年を契機とされまして、相互の友情と連携を深められ、今後とも、21世紀を目指すまちづくりの若きリーダーとして、街を歩くと温かさと豊かさを実感できる、子や孫に誇れる地域社会の形成に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終りに、(社)相模原青年会議所におかれましては、このたびの創立30周年という輝かしい実績を礎とされまして、力強く活気あふれる御発展と会員皆様の躍進を祈念して、お祝いのことばといたします。



相模原商工会議所
会 頭 篠崎源太郎

「お祝いの言葉」

社団法人相模原青年会議所が、このたび創立30周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

創立以来、皆さんが「青年の勇気と情熱」をもって、住みよい明るい豊かな社会づくりに取り組まれ、輝かしい成果をあげられましたことは、歴代の理事長をはじめとする役員や会員皆さんの長年の努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

この30年間は、日本の経済が著しく変動した時期でもあり、高度経済成長を経て、いくつかの厳しい局面を迎えながらも、どうにか乗り越えてまいりました。近年のバブル経済崩壊後長期にわたった景気低迷も一連の施策によって、ようやく明るい兆が見えてまいりました。

しかしながら、緩やかな景気回復過程にあるとはいえ、本年1月の阪神・淡路大震災や急激な円高による産業の空洞化、規制緩和など解決しなければならない諸問題が山積しております。

相模原市では21世紀をめざしたまちづくりのため、産業の振興、都市環境の整備、社会福祉の向上、教育文化の充実を重点に置いた施策の推進が図られておりますが、当商工会議所としても、産業界の立場から将来の相模原市を創造、提案するため、都市産業研究会を発足させました。

都市産業研究会は、首都圏における広域中核都市をめざし、経済圏の人口を80万人とする、相模原市のまちづくり・産業振興策を調査・研究し、政策を提言するための活動を行います。

住みよい明るい豊かなまちづくりの実現には産・学・官が一体となって推進することが必要であります。どうか皆さんも、友情、奉仕、修練の三つの信条のもと、引き続き社会のリーダーとして、新時代を切り開いていかれることをご期待申し上げます。

おわりに、30年にわたる輝かしい実績を土台として、社団法人相模原青年会議所が今後ますます発展されるようお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



社団法人 日本青年会議所
会 頭 山 本 潤

「30周年・新しい次代の始まりによせて」

相模原で頑張る地球市民の皆さん、貴青年会議所の創立30周年おめでとうございます。

私は小さい頃から、初日の出を見るのが好きでした。海の向こうから、空の色を変えながら昇ってくる太陽は、時を塗り替えるかのように光を投げかけ、まるで私まで新しくなったような気持ちにさせてくれます。そして心のどこかには、昨日と何一つ変わっていない太陽に、また会えたことに感謝し、幸せにひたっている自分もいるのです。

こうして私たち日本人は、初日を浴びながら、昨日までに感謝し、新しい一年のために新しい自分をセットアップしてきました。

それはとても気持ちの引き締まる素敵な感覚です。青年会議所の周年の年とは、ちょうどこんなふうに、初日を見つめる日本人の心に似ています。

世界は今、新しい時代へと大きく変化しつつあります。イデオロギーによる対立の終焉を歓迎するいとまもなく、ローカリズムの芽生えによる地域紛争が表面化し、私たちが信じてきた経済発展の陰には、地球規模での環境破壊や富の不平等が横たわっていました。

世界の価値観が大きく変わろうとしているこの時代にあって、青年会議所が提唱し続けてきた、地域から世界を考え、地域が主体となって日本を形づくっていく地域主権はますます必要に迫られています。

激動するアジアや世界の中で、今後私たち日本の顔となるべきなのは、それぞれの個性を地域の活力として活かし、自らの将来に責任をもてる地域です。地域から世界へのアイデンティティーあふれた発信が、日本に日本らしい顔を持たせ、日本の次なる発展の力となることでしょう。

新しい地球市民の時代とは、それぞれの国や地域、民族、そして個人がその個性を活かし、互いに理解しあいながら創造していく社会に他なりません。そしてその推進者こそが、次代を担うクリエイターとして認められることでしょう。

21世紀を目前にした1995年、30周年を迎えられたことを契機に、相模原で頑張る皆さんの、個性あふれるまちづくりが、日本の素敵な顔の一つとして輝きますことを祈念申し上げます。

社団法人日本青年会議所 常任理事
関東地区協議会
会長 天川 貴



祝 辞

(社)相模原青年会議所創立30周年を迎えるにあたり、会員の皆様をはじめ先輩諸兄、関係各位の皆様へ心よりお祝い申し上げます。ここに至るまでにはさまざまな、素晴らしい地域貢献活動があった事と、ご推察致すところであります。地域社会の皆様にも深い御理解を得て、本年までの輝かしい足跡を考えると共に、先輩方の御労苦に感謝の念を抱く訳であります。(社)相模原青年会議所は本年、「初心にもどり楽しいJ・C・地球市民としての相模原のまちづくり」を基本方針とし青年会議所活動に於いて、新世紀を見据えた活動展開を企画され、30周年を意義ある節目となるように区内会員の一人として期待する所でございます。

本年度、青年会議所運動の本質を問われる要因が年頭より生じたことは会員の皆様におかれましても御承知の件であります。世界を取り巻く民族紛争、飢餓問題、異常気象による洪水災害、また日本における阪神淡路大震災、毒薬サリンによる無差別殺人、経済問題における円高等、暗い事件ばかり我々は耳にします。まさに、こんなときだからこそ我々若者が頑張らねばならないと思う訳であります。

「あなたの街、住みやすいですか？」山本潤会頭も自ら聞いています、自分たちの住む街を、地域を、愛せて・誇れて・夢の持てる街にしようではありませんか、またそれが地域に住む若者の責務だと考えます。

関東地区協議会では、「意識しよう地球市民、新たなる関係の時代へ！」を基本理念としまして、地球市民時代のひとつづくり・地球主権型社会へのまちづくり・地域社会貢献型運動の推進・活力ある関東地区協議会づくりを目指して活動展開して参りたいと思います。

そして、「いい風 感じる 関東地区」に願う所であり是非今後も、(社)相模原青年会議所の皆様には、御理解と御協力をお願いし、最後に(社)相模原青年会議所の更なる発展を、御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



社団法人日本青年会議所関東地区
神奈川ブロック協議会
会長 勝 治雄



お祝いの言葉

社団法人相模原青年会議所が創立30周年を迎えられましたことを、神奈川ブロック協議会を代表して、衷心よりお慶び申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。地域に根差した素晴らしい活動の歴史である、この30年を築き上げてこられました先輩方、そして、それを引き継ぎ、本年度創立30周年の記念の年に相応しい活動をされている角尾彰央理事長はじめとする現役会員の皆様には、心から敬意を表する次第でございます。

社団法人相模原青年会議所の今までの活動を顧みますと、ここ数年社会全般で大きくクローズアップされてきた環境問題を、遙か以前から、「緑」の問題として、先取りされ取り組まれていたことが、まず思い起こされて参ります。最近でこそ、全国の青年会議所の中でも、まちづくりと環境問題とを組み合わせる運動展開することは、目新しい事ではなくなってきておりますが、10年以上前から、こうした観点から活動をされ、成果を上げてこられた相模原青年会議所の皆様の先見の明には、敬服を致します。是非、今後とも、環境問題へ取り組んだ先駆者の青年会議所として、益々この面においても、大きな成果を挙げていただきたいと考えます。

そして、本年、年明け早々に発生した阪神淡路大震災への震災支援につきましては、私ども青年会議所としても、全国の組織を上げて取り組ませていただきましたが、そうした中で、角尾彰央理事長率いられる相模原青年会議所のメンバーの方々の、震災発生直後に現地に飛ばれ、速やかに支援活動を行われたことには、その行動力、決断力に大変驚かされたと同時に、非常に頼もしく感じました。

環境問題への取組で示された先見力と、非常時での、こうした行動力、決断力とは、正に私たち青年会議所が、青年らしく前向きに、成果を上げるべく活動をしていく時に、最も大切な要素かと思えます。

是非、社団法人相模原青年会議所の皆様には、先見力と行動力とを兼ね備えた青年会議所として、この創立30周年を契機に、会員の皆様一体となって益々素晴らしい活動をしていかれますことを、切にご祈念ご期待を申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



社団法人川崎青年会議所
理事長 二宮 宏光



御 祝 辞

社団法人相模原青年会議所の皆様、創立30周年を心よりお慶び申し上げます。
創立より30年間にわたり、相模原そして神奈川のひとづくり、まちづくりにご尽力されてまいりましたことに、そして私ども(社)川崎青年会議所に対しまして大変なご支援を賜りましたことに敬意を表するとともに深く感謝申し上げる次第であります。

1965年、日本経済がまさに高度成長期を迎えている中、貴青年会議所は神奈川県を中心部であります相模原に誕生され、地に足のついた活動を積み重ねながら、後進の育成にも意欲的に取り組まれ、本年は角尾彰央理事長の素晴らしいリーダーシップのもと地域の為に積極的に活動されておられる姿は、共に社会開発運動を行っている同志として誠に心強い限りであります。

戦後50年、21世紀を目前に控え今まさに地域、日本、そして世界が新たな価値観のもと、大きな変化の様相を見せております。

私達の運動が地域社会の指導的役割を担っているとするならば、その運動は常に次代に対する先見性と柔軟な適応力を持って取り組む必要があるとおもいます。さらに国際社会の到来、地球市民の時代、そして目前に迫った21世紀を迎える為にも、私達青年には新たな価値観のもと、アイデアと独創性が求められている様に思えます。

創立後30年間の重みある歴史や伝統が融合された今日、常に地域の人々を巻き込み、次々とアイデア豊かな事業を展開され素晴らしい成果を上げて来られた事は、真に青年会議所活動の模範であり、地域の人々や行政に大いに期待されているとお聞きしております。貴青年会議所のパワーは地域の特色を生かした自立したまちづくりの原動力として、まさに地域発展の要となられています事を確信いたします。

おわりに創立30周年を大きな節目として、貴青年会議所が各地青年会議所のリーダーとして益々ご発展されますことを心よりご祈念申し上げますと同時に、同じ神奈川県内の青年会議所として、(社)相模原青年会議所と私共(社)川崎青年会議所がさらに交流を深くし、手と手を結んで共にまちづくりをしまります事を切にお願いを致しまして御祝の言葉とさせていただきます。



부산해운대청년회의소
회 장 신 한 구

창립 30주년을 진심으로 축하드립니다

무철한 사명감과 헌신적인 노력으로 지도역량개발, 지역사회개발, 세계와의 우정을 위해 젊음을 불태우며 새로운 청년운동을 꽃피워온 상모원 J C가 창립 30주년을 맞이하게 된것을 부산해운대 J C 전회원과 더불어 진심으로 축하드립니다.

30년이라는 짧지않은 연륜이 쌓일때까지 탁월한 창의력과 성실한 자세로 그동안의 온갖 시련과 어려움을 극복하고 모범적이고 훌륭한 참더로 성장 발전시키기 위해 온갖 정열을 쏟아온 역대 이사장님을 비롯한 선배님들의 희생과 노고에 고개숙여 감사드립니다.

그리고 인류애의 봉사가 인생의 가장 아름다운 사업임을 표방하고 자랑스럽게 생활하는 젊은 J C인에게는 행동과 실천이 함께하지 못하는 구호성만으로 의식전환을 이루고자 하는 여망은 이미 구습에 따른 지탄의 대상이 된지 오랜일일 것입니다. 명실상부하게 청년 단체로 자부하는 J C인들은 실질적인 창조적 의지로 진정한 청년문화의 정착은 물론이거니와 이웃과 지역사회에 인정받고 미래를 책임질 주역의 자리를 확보할수 있어야 할것입니다. 이에 상모원 J C의 숭고한 이념을 실천하고 성장시켜 나아가리라 기대합니다.

존경하는 상모원 J C 회원 여러분!

본회의소와 상모원 J C는 1982년 박정오 회장님과 飯淵雅敏 이사장 재임시 자매 J C를 체결한 이래 지금까지 14년여의 세월동안 자매의 정을 나누었고 근래에는 상호 방문하여 간담회 자리를 마련하여 대회를 통해 처음의 단순한 우의교류에서 한차원 높은 단계의 성숙한 관계를 이루게 되었습니다.

앞으로도 보다더 진보된 서로의 공동사업을 발굴하여 보다 내실있는 자매 J C간의 정을 나눌수 있기를 바랍니다.

끝으로 창립 제30주년을 진심으로 축하드리며 오늘의 이 행사가 있기까지 수고하여 주신 角尾彭央 이사장과 회원 여러분의 가내 건강과 행운이 늘 함께하기를 기원드립니다.

대단히 감사합니다.

釜山海雲臺青年會所

會長 辛 瀚久

創立30周年記念お祝いたします

献身的な努力と地域社会開発、世界化の友情のため青春を燃やしながら新しい青年運動を展開してきた相模原 J C 創立30周年を、釜山海雲台 J C 全会員と共に心からお祝いたします。

その間あらゆる試練と困難を克服し模範的な活動を通じて J C の成長発展に貢献してきた貴 J C の歴代理事長を始めとし先輩皆さんのご苦勞に対して心から感謝します。

青年団体の主体として自負している J C 人達は実質的な創造意志をもって青年文化の発展に寄与するのは無論のこと地域社会からも認められる未来をになう主役として努力すべきであります。相模原 J C は、このような崇高なる現動を實踐しながら成長発展するものと期待しています。

尊敬する相模原 J C 会員の皆さん、本 J C と相模原 J C は1982年会長の飯淵雅敏理事長の在任時に姉妹 J C を締結して以来、14年間、当初の単純な交流から、一次元高い段階の成熟した関係にまで発展してきました。今後も、もっと進歩した相互共同事業を發掘して、もっと実りのある姉妹 J C 間の情を共にしたいと思います。

終に貴 J C 創立30周年を心からお祝いたしますとともに、角尾彭央理事長の健康と皆さんの健康をお祈りもうしあげます。

まことに、ありがとうございました。



初代理事長
矢島 治

祝 辞

社団法人相模原青年会議所創立30周年を心よりお祝い申し上げます。

30年、0才児が30才になる迄の期間ですので大変長い年月なのですが、私は相模原J.Cの創立がつい先日のごとくに当時の様子が鮮かに脳裏に浮んでまいります。特に認証式当日、前夜迄降り続いた大雨と打ってかわり、早朝のすばらしい青空、エクスカッションもすべておわり、メンバー全員でテントをたたんだあと、田名の河原の土手に座って見た夕日の美しくさです。

相模原J.Cの歴史は県内J.Cを紹介した、若き経済人群像「かながわ青年会議所物語」(神奈川新聞社)に詳細に発表されております。又創立総会、認証式については、平成2年4月7日号の相模原J.Cニュースの渡辺理事長との対談で創立迄の経過が多少おわかり頂けると思います。

私が相模原J.Cの創立の準備を始めた時は既に38才になっており、1年数ヶ月で退会しました。当時35人の創立メンバーの方々とは相談をして創立したのですが「無から有を生じ」現在のすばらしい相模原J.Cの活躍は当時の私には想像もできませんでした。

当時を振り返り、今でも深く感謝しておりますのは、スポンサーJ.Cである川崎J.Cのメンバーの方々、川崎J.Cをスポンサーとして紹介頂いた日本J.Cの担当理事であった、ミスターJ.Cこと横須賀J.Cの高地光雄さんです。まだ例会というより創立準備打合せ会とでも申しましょうか、昭和40年の6月頃より隔週位に川崎J.Cは、大日向拡大委員長、増田直前理事長、故中野貴司次期理事長が中心となって会場であった、三光社、湖野辺病院迄おいでを頂き「J.Cとわ」を含め多くの御指導を受けました。その川崎J.Cのメンバーの方々の努力に対する感謝の気持は言葉ではあらわしようがありません。「志を同じうする者相集い、力を合わせ・・・」のスローガンそのものでした。

その後の相模原J.Cの活躍は歴代理事長の指導力と会員の努力により「市民桜まつり」「ふるさとづくり運動」等で偉観なくその実力が発揮され、O.B.として本当にうれしく思っております。

どうぞ今後も40才迄のあふれる力を100%発揮し、57万都市相模原の発展に尽くされんことを切望してお祝いの言葉と致します。



社団法人相模原青年会議所
シニアクラブ
会長 宮崎 直道

創立30周年に当って

(株)相模原青年会議所が、ここに創立30周年を迎えることができました。かつて1965年9月、川崎青年会議所の熱烈な肝入りで、創立総会までこぎつけ、翌年4月漸やく(株)日本青年会議所に入会が認承されました。

以来県内外を始めとするJCメンバーや地域行政等関係者各位の御支援御協力と、30年の歴史を引き継ぎ不断の努力を続けるメンバーの熱意によって、この節目の年が迎えられたものと、心より感謝と敬意を表するものであります。

創立会員として、住時を振り返りますと、さまざまな感懐をおぼえますが、やはり時の流れにはさからえないものを感じます。創立以来10年間、JC運動に携わり貴重な体験の日々で、有意義な年月を過ごさせていただきました。然しそれから倍の20年が過ぎました。

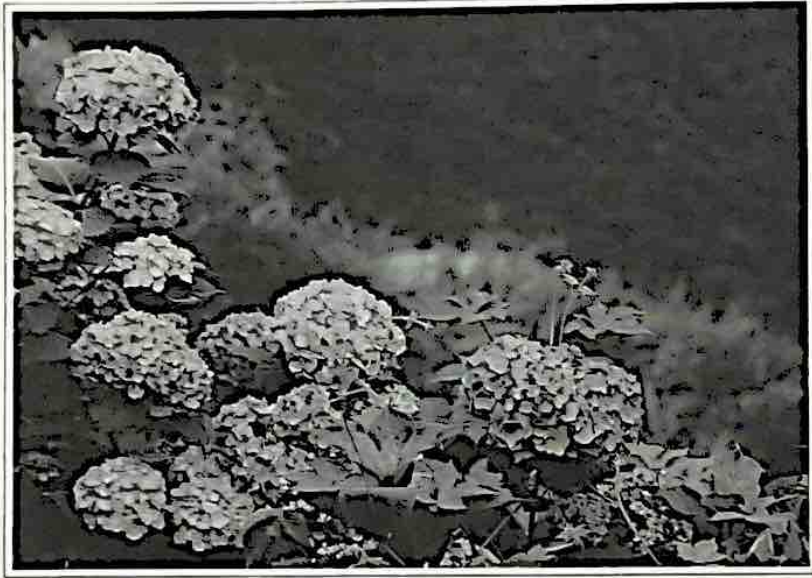
当市も創立当時は人口約15万人の中核都市でありましたが、現在は58万人にもならないとする大都市に発展しております。街の型態も、市民の要望も時々刻々変化して行きます。JC活動も当然それに合わせて変化して行くものと思いますが、その理念は普遍的なものであり、しっかりと足元を見つめ、歴史と伝統を引継ぎ、地域社会で必要とされる団体となれるような運動を、今後も展開していってほしいとお願いいたします。

この30年の歴史の中で、JCから去られた方々も百五十名近くになり、現役の数を凌ぐ人数となりました。それぞれが各分野で活躍され、JCでの経験を十分に発揮されて地域の発展に寄与しており、心強い限りであります。

シニアクラブも仲々思うような動きが出来ませんが、OB諸兄姉又現役会員に協力をいただき、その存続を図っていきたいと考えております。ご理解をいただきたいと存じます。

現役時代よりシニア会員として倍の歳月を経た人には、仲々住年の熱意は失われ、ただ懐かしさが先に立つのみですが、これから40年50年と更に心強い活動が展開され、その歴史を刻んでいくことを要望いたします。そしてここに、創立30周年に当り、関係各位のご理解とご支援を賜りますよう更にお願ひ申し上げます。現役の諸君には、これを機に内部の充実を図り、華美に流れぬ着実な運営と活動を続けられるよう、重ねてお願いし粗辞であります。祝辞とさせていただきます。

相模原の自然



相模原市の花「あじさい」

SAGAMIHARA JC HISTORY

(社)相模原青年会議所の歴史

1991



1991年10月1日、相模原青年会議所は、相模原市を会場として、創立30周年記念大会を開催しました。この大会には、多くの来賓が参加し、盛況のうちに開催されました。また、この大会を機に、本会の活動の充実と発展を期すこととなりました。

1965~1966 昭和41年



理事長 矢島 治

〈J C 主要事業〉

- 創立総会の開催
- 認承証伝達式の挙行。(認承番号316号)
- 学童通学路標識の寄贈。
- 「からだの不自由な子に大きな夢を」ドリームカード発行。
- J C デー特別講演会の開催。

〈日本・世界の出来事〉

- 2月 全日空、ボーイング727型機、羽田沖墜落。
- 3月 カナダ太平洋航空DC 8機、羽田着陸失敗。
- 3月 BOAC、ボーイング707型機、富士山中に墜落。
- 6月 ザ・ビートルズ東京公演。
- 8月 東京山谷で労働者暴動事件。
- 12月 衆院、黒い霧事件で解散。

昭和42年 1967

〈J C 主要事業〉

- 市議会議員を囲む会の開催。
- 県議会議員を囲む会の開催。
- J C デー「交通戦争から市民を守ろう」の実施調査。
- 神奈川ブロック、ジャガイモ大会の主管。
- 広報紙「柴胡」第1号発刊。

〈日本・世界の出来事〉

- 1月 第31回衆議院選挙。自民支持率50%割る。
- 4月 東京都知事に美濃部亮吉当選。
- 6月 第3次中東戦争勃発。
- 9月 「サーベイヤー5号」月面軟着陸に成功。
- 10月 吉田茂死去、戦後初の国葬。
- 11月 第2次羽田事件。



理事長 土屋 定

1968 昭和43年



理事長 飯田 亨

〈JCI主要事業〉

- JCIデー「市教育長を囲む会」の開催。
- 「市立青年の家」立看板寄贈。
- 一般公開例会、交通法令講習会の開催。
- ジャガイモゴルフ、家族会、ボーリング大会などの開催。

〈日本・世界の出来事〉

- 2月 金喜老事件発生。
- 4月 米黒人指導者、キング牧師暗殺
- 6月 ロバートケネディ大統領候補暗殺。
- 6月 東大紛争始まる、安田講堂事件。
- 7月 第8回参議院選挙、タレント候補大量当選。
- 10月 川端康成、ノーベル文学賞受賞。
- 12月 3億円事件発生。

昭和44年 1969

〈JCI主要事業〉

- 神奈川ブロック協議会主管。
- 市長を囲む会「本年度の市政について」開催。
- JCIデー「青少年問題」市民討論会の開催。
- 防衛問題アンケートの実施。
- 社会協力委員会の発足。

〈日本・世界の出来事〉

- 1月 東大「安田講堂」の封鎖解除。
- 3月 中ソ両軍、ダマンスキー島で武力衝突。
- 5月 東名高速道路全面開通。
- 7月 「アポロ11号」人類初の月面着陸に成功。
- 11月 赤軍派を大菩薩峠で53人逮捕。
- 12月 第32回総選挙、社会党大敗。



理事長 古藤 友昭

1970 昭和45年



理事長 宮崎直道

〈J.C.主要事業〉

- J.C.デー「70年代の教育について」市民集会の開催。
(講師－無着成恭氏)
- 市内中、高校生作文募集、発表会開催。
- 創立5周年記念例会の開催。
- 「日本の安全と防衛」市民アンケート、市議を囲む討論会の開催。
- 一般公開例会「献血問題について」開催。

〈日本・世界の出来事〉

- 2月 東大宇宙研、人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功。
- 3月 日本万国博、大阪で開催。
- 3月 「新日本製鉄」発足。
- 3月 日航機「よど号ハイジャック事件」。
- 8月 東京銀座「歩行者天国」始まる。
- 11月 三島由紀夫、自衛隊乱入、割腹自殺。

昭和46年 1971

〈J.C.主要事業〉

- 第1回チャリティーショー劇団四季「ハムレット」開催。
- 相模原青年会議所、定款及び書式の整備。
- 「公害」についての討論会の実施。
- 「横浜線複線化」問題についての例会開催。

〈日本・世界の出来事〉

- 5月 「連続女性誘かい殺人事件」大久保清逮捕。
- 7月 環境庁発足。
- 7月 自衛隊機、全日空機と衝突墜落。
- 9月 天皇、皇后両陛下、ヨーロッパ親善訪問へ出発。
- 12月 インド、パキスタン戦争勃発。
- 12月 ベトナム戦争「北爆」開始。



理事長 内田 寛

1972 昭和47年



理事長 宮崎 昇

〈JC主要事業〉

- 日本ボーイスカウト相模原第7団、発団式の挙行。
- 青年の船「あすの青年号」に参画及び報告会の開催。
- 第2回チャリティーショー劇団四季「オンディーヌ」上演。
- 市議会議長を囲む討論会の開催。
- 一般公開「経営セミナー」の実施。(講師-牛尾治朗氏)

〈日本・世界の出来事〉

- 1月 グアム島で横井庄一元日本兵を発見。
- 2月 第11回冬季オリンピック札幌大会開催。
- 2月 浅間山荘事件。
- 3月 奈良県高松塚古墳に壁画発掘。
- 5月 沖縄返還。沖縄県発足。
- 9月 田中首相、中国訪問、日中国交正常化。
- 10月 ジャイアントパンダ上野動物園へ来る。

昭和48年 1973

〈JC主要事業〉

- 相模原模擬市議会の開催。
- JCデー早起き野球大会の実施。
- チャリティーボウリング、ゴルフ大会の開催。
- 韓国親善旅行の実施。
- 第3回チャリティーショー劇団四季「聞奏曲」実施。

〈日本・世界の出来事〉

- 1月 北京に日本大使館開設。
- 3月 ベトナム戦争終結。
- 8月 金大中氏、東京で誘拐さる。
- 10月 第4次中東戦争起こる。
- 11月 熊本大洋デパート昼火事。
- 11月 トイレットペーパー買占め騒ぎ起こる。



理事長 山内 大

1974 昭和49年



理事長 川合貞義

〈J.C.主要事業〉

- 第1回市民さくらまつりへの参画。
- 交通キャンペーン、交通安全教室の実施。
- 「柴胡」市民版発行。
- 第4回チャリティーショー「ねむの木の詩」開催。
- 第1回ビジネス放談会実施。

〈日本・世界の出来事〉

- 3月 フィリピン・ルバング島、小野田元陸軍少尉救出。
- 5月 堀江謙一「マーメイド3世号」で世界一周成功。
- 8月 ニクソン大統領、ウォーターゲード事件で辞任。
- 8月 丸の内三菱重工ビル爆発事件。
- 10月 巨人軍、長島茂雄選手、現役引退。
- 11月 田中元首相、金脈問題で辞任表明。

昭和50年 1975

〈J.C.主要事業〉

- 創立10周年記念式典の開催。
- 第2回市民若葉まつりへの参画。
- J.C.文化講座の開催。(講師-無着成恭氏・西丸震哉氏)
- 早起き野球大会の開催。
- 新入会員拡大の実施。

〈日本・世界の出来事〉

- 2月 サッチャー女史、イギリス初の女性党首に。
- 5月 エリザベス女王来日。
- 6月 佐藤栄作元首相死去、国民葬。
- 7月 沖縄海洋博開催。
- 8月 興人倒産、負債1,500億円。
- 9月 天皇、皇后両陛下訪米。



理事長 大貫一男

1976 昭和51年



理事長 中村 宣勝

〈J C 主要事業〉

- 社団法人資格の取得。記念例会の開催。
- 解散総会及び設立総会の開催。
- J C 文化講座「君は君、僕は僕、でも仲よく」(講師-茅誠司氏)
- J C ルームの設置。
- 第3回市民さくらまつりへの参画。
- J C 市民寄席の開催。 { 出演-玉川勝太郎、松平容子、ダーク夏美、
鈴々舎馬風、大空あきら・たかし
- ゴミ処理問題アンケートの実施と編集、配布。
- 早起野球大会の実施。閉会式 (講師-カイザー田中氏)
- L D セミナー「自己を動かす力」(講師-大野勝憲氏)
- 例会「若い人のころ」 (講師-石井儀氏)
- 例会「企業人とJ C のメンバーとの対話集会」
- 例会「アイデアと権利」 (講師-西村豊親氏)

昭和52年 1977

〈J C 主要事業〉

- 市民総合意識アンケートの実施。
- 第4回市民さくらまつりへの参画。(仮装パレード、特設ステージ)
- 第5回早起き野球大会の実施。
- 第6回チャリティーショー「ねむの木の詩が聞える」開催。
- 例会「40万人の連帯」パネルディスカッションの開催。
- 例会「あなたもすぐれたリーダーになれる」
(講師-横山君、藤岡J C)
- 例会「人前での話し方」(講師-早瀬市郎氏)
- 例会「J C に期待する」(講師-相模原市長)
- 例会「S U N 計画と実践指導力」(講師-鈴木安之君、逗子J C)
- 例会「地方自治と人生」(講師-河津前市長)
- 例会「200海里」 (講師-杉山茂雄氏)
- 例会「世論調査とは」 (講師-杉山主任研究員、NHK)
- 「ふるさと意識調査ブリテスト」の実施。



理事長 久保田 栄一

1978 昭和53年



理事長 水谷好佐

〈J.C.主要事業〉

- 公開例会「ふるさとづくりを考える」パネル討論会
- 第5回市民さくらまつりへの参画。(仮装パレード)
- さくらまつりポスター展の開催。
対話集会「僕と私とさくらまつり」
- 同伴例会「私と音楽」 (講師-中村八大氏)
- 例会「J.C.マンの健康管理」 (講師-河野友治氏)
- 例会「J.C.と人づくり」 (講師-洞外文隆氏)
- 例会「模擬結婚披露宴」開催。
- 例会「相信の歩みと経営戦略」(講師-篠崎隆氏)
- 例会「アイワールドの歩みと経営戦略」(講師-五十嵐由人氏)
- 例会「SUN計画について」 (講師-水島君、平塚J.C.)
- J.C.チャリティー映画会「君はいま光の中で」開催。
- 早起き野球大会の実施。「野球を通じての人づくり」
(講師-砂押氏)

昭和54年 1979

〈J.C.主要事業〉

- 新設ロム「大和青年会議所」拡大。
- 関東地区協「社会開発優秀賞」褒章。(市民さくらまつり)
- J.C.デー文化講座「親の心と子の心」(講師-高田好胤氏)
- 第6回市民さくらまつりへの参画。
- 例会「J.C.は今何を考え、何をすべきか」納涼座禅会。
- (社)相模原青年会議所入会手引書の作成。
- 例会「日本J.C.の体験を通じて…今後のJ.C.のあり方」
(講師-鶴岡君)
- 例会「現代の中国、マスコミに報道されない中国」
(講師-菅沼正久氏)
- 例会「今後の市政を聞く」 (講師-相模原市長)
- 例会「人間は思ったほど利孝でない」(講師-富谷竜一氏)



理事長 菅沼山一

1980 昭和55年



理事長 香川正勝

〈J C 主要事業〉

- 15周年記念例会の開催。
- 青少年健全育成相模原市民会議の開催。
- 15周年記念経済人セミナー「80年代の経済動向を探る」
(講師-竹村健一氏)
- 大和J C 合同例会「J C マンとしての心得」
(講師-洞外三浦 J C O. B)
- 大和J C 合同例会「政治と経済のかかわりについて」
(講師-戸沢政方氏)
- 例会「トップリーダーの行動のあり方」(講師-浜田三雄氏)
- 例会「明るい豊かな社会づくり」(講師-館盛相模原市長)
- 市民会議「リーダー育成」討論会の実施。
- 相模原、大和、座間、3 L O M 合同例会の開催。
- 第7回市民さくらまつりへの参画。

昭和56年 1981

〈J C 主要事業〉

- 神奈川ブロック協議会会長出向。
- 「日中友好青年の翼」の実施。(社)相模原青年会議所友好訪中団。
- J C デー第1回「さがみはら少年の主張」の開催。小冊子の作成。
- 第8回市民さくらまつりへの参画。
- 会員拡大、100名 L O M の達成。
- 大和J C 合同例会の実施。(講師-麻生太郎氏、森輝彦君)
- L D 道場「80年代に対応する指導者理念」(講師-小沢元会頭)
- 少年野球教室の開催。
- J C デー文化講座 (講師-西岡武夫代議士)
- 例会「あなたの企業の悩みごと」グループ討議。
- 経営スクール「生き残るための企業経営」(講師-長谷川記一氏)
- 例会「家庭教育のあり方」(講師-浜田三雄、駒子夫妻)
- 関東地区協議会会長公式訪問例会(100%出席)開催。



理事長 秋石圭一

1982 昭和57年



理事長 飯 淵 雅 敏

「水は方円の器に随う」

〈J C 主要事業〉

- 韓国海雲台J Cとの姉妹J Cの締結。
- 津久井青年会議所の拡大。
- 第2回「さがみはら少年の主張」の開催。
- 第9回市民さくらまつりへの参画。
- 神奈川ブロックジャガイモ大会の開催。
- 例会「J C I とシスターJ C」 (講師-長尾原一氏)
- ソフトボール大会、クリスマス家族会の実施。
- さくらまつり市民会議の開催。
- 例会「継承税制の問題」 (講師-磯野雅一氏)
- 例会「先代を超える強い社長になる法」(講師-森和夫氏)
- 例会「相模原におけるコミュニティづくりを目指して」
(講師-館盛相模原市長)
- 例会「コミュニティ・リーダーを目指して」(講師-古川喜章氏)
- 例会「J C メンバーが取り組める地域の教育活動」

昭和58年 1983

〈J C 主要事業〉

- 相模原、大和、津久井、3 L O M 合同例会の開催。
- 教育問題市民集会「親と子の愛」開催。(講師-穂積隆信氏)
- 韓国海雲台J C、交流ソフトボール大会実施。相互公式訪問の実施。
- 第3回さがみはら少年の主張の開催。
- 第10回市民若葉まつりへの参画(子供遊園地、とび入りステージ)
- J C チャリティー映画会「ビートルズ、ヤアヤアヤア！」開催。
- 津久井J C 合同例会「常にタイムリーな発想と実践」開催。
- 例会「戦国武将とその時代の人々」 (講師-田中澄江氏)
- 例会「すぐに役立つ正しい会議のすすめ方」(講師-竹前勝夫氏)
- 例会「企業とJ C におけるリーダーシップ」
(講師-斉藤斗志二君)
- L D 道場「The解剖・人という動物」 (講師-森田浩一郎氏)
- L D 道場「心」(講師-世和玄次氏)
- 例会「企業成長の基本原理」 (講師-伊藤辰郎氏)



理事長 根 本 忠 幸

1984 昭和59年



理事長 小形年雄

〈JC主要事業〉

- 第1回市民会議「子や孫に残そう私達の緑」の開催。
- 第12回神奈川ブロック会員大会の開催。
(記念講演会 講師-藤原弘達、竹村健一氏)
- 第11回市民さくらまつりへの参画。
- 例会「緑、交通、国際交流」 (講師-市議会議員各派代表)
- 例会「21世紀をめざすさがみはらプラン」
(講師-館盛相模原市長)
- 公式訪問例会「相模川バイパス」構想の提案 (講師-緒形昭義氏)
- 例会「我々企業をとりまく地域経済の動向を考える」
(講師-松田孝雄氏)
- 例会「集へ、英知ある青年たちよ!」 (講師-河野洋平氏)
- 20周年準備会議の開催。答申書「20周年の在り方」作成。
- 韓国海雲台JC7周年記念例会出席。JC会館完成記念植樹。
- クリスマスチャリティーピアノコンサートの開催。
(出演-清水和音)

昭和60年 1985

〈JC主要事業〉

- 20周年記念式典の開催。 (記念講演-金田正一氏)
- (社)日本青年会議所関東研修委員長出向。
- 第2回日中友好青年の翼の実施。
- 緑の保全と育成「わんぱくパトロール」実施。
- 緑の保全と育成「緑チャリティーコンサート」実施。
- 第12回市民さくらまつりへの参画。
- 例会「相模原JC20周年をむかえて脈打つJC運動」
(講師-鈴木邦夫君)
- 例会「青年の役割」 (講師-館盛相模原市長)
- OB合同例会「四ツ谷怪談」 (講師-神田小山陽)
- 例会「信頼されるリーダーの条件」 (講師-秦野章氏)
- 例会「都市づくりとニューメディア」 (講師-大宮正氏)
- 例会「JC運動とLDの役割」 (講師-林達夫氏)
- 2LOM合同公式訪問例会「地域経済の活性化」



理事長 内田一夫



理事長
杉岡 芳樹

1986 昭和61年

〈JC主要事業〉

- ・第13回市民さくらまつりへの参画。
- ・JCスクールの開催。
- ・三世代交流ゲートボールの実施（小山スポーツ広場）
- ・三世代ふれあいキャンプの実施（野外教育センター）
- ・緑の保全と育成「みどりチャリティーショー・アンパンマン」
- ・2 LOM合同例会「我が町を考える」
- ・LDセミナー（一泊）（講師－志水陽光氏）
- ・経営セミナーの開催（MIA）
- ・例会「JCデー全国一斉100%例会」9月3日

〈主な出来事（日本、世界）〉





1986年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

日本JC

研修室第1研修委員会	委員	細谷政幸君
北方領土特別委員会	委員	永瀬泰敏君
財政特別委員会	委員	久保田護君

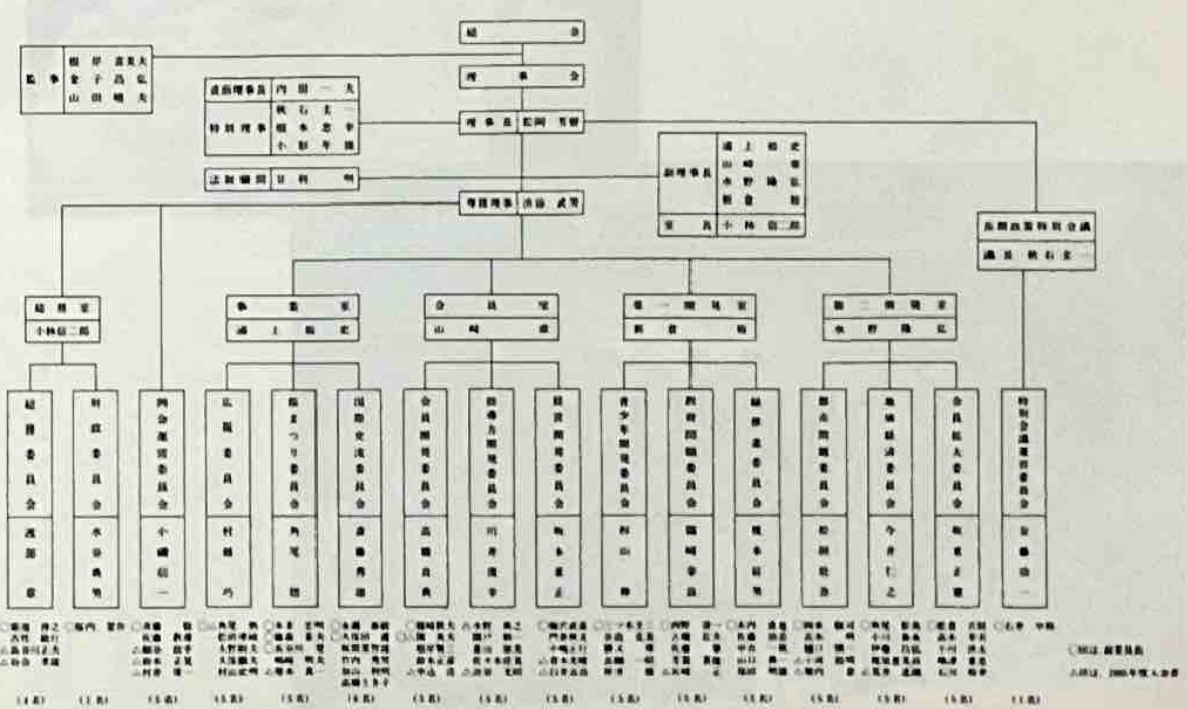
関東地区協議会

社会開発議長会議	委員	角尾悟君
----------	----	------

神奈川ブロック協議会

神奈川ブロック協議会	副会長	根本忠幸君
会員交流特別委員会	委員長	根岸喜美夫君
//	幹事	岡本敬司君
国際問題特別委員会	副委員長	斎藤秀雄君

行政改革推進特別委員会	副委員長	保田明雄君
副会長セクレタリー		梅沢武彦君
ブロック会員大会特別委員会	委員	中吉一秋君
神奈川経済人会議運営特別委員会	委員	高橋良典君
会員研修セミナー運営特別委員会	委員	川井俊幸君
会員会議所執行部会議	委員	浦上裕史君
//	委員	山崎章君
//	委員	水野陸弘君
//	委員	新倉裕君
//	委員	渡谷武男君





理事長
浦上 裕史

1987 昭和62年

〈J.C.主要事業〉

- ・'87青年経済人フォーラムの開催
- ・三世代ふれあいキャンプの実施（野外教育センター）
- ・三世代交流ゲートボールの実施
- ・第14回市民若葉まつりへの参画。
- ・緑チャリティーショー「アラジン」劇団飛行船
- ・例会「J.Cとは」田舞元副会頭
- ・例会「J.Cと義理」林達夫 東京J.C O.B
- ・例会「会員拡大の必要性」浅利会頭
- ・例会「一泊、PIPプログラムの実施」
- ・海雲台J.Cとの絵画交流の実施





1987年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

(社)日本青年会議所

地区ブロック運営会議	副議長	秋石圭一君
第二研修委員会	委員	鈴木正彦君
//	委員	関英夫君
洋上スクール運営委員会	委員	細谷政幸君
財政特別委員会	委員	古性敏行君

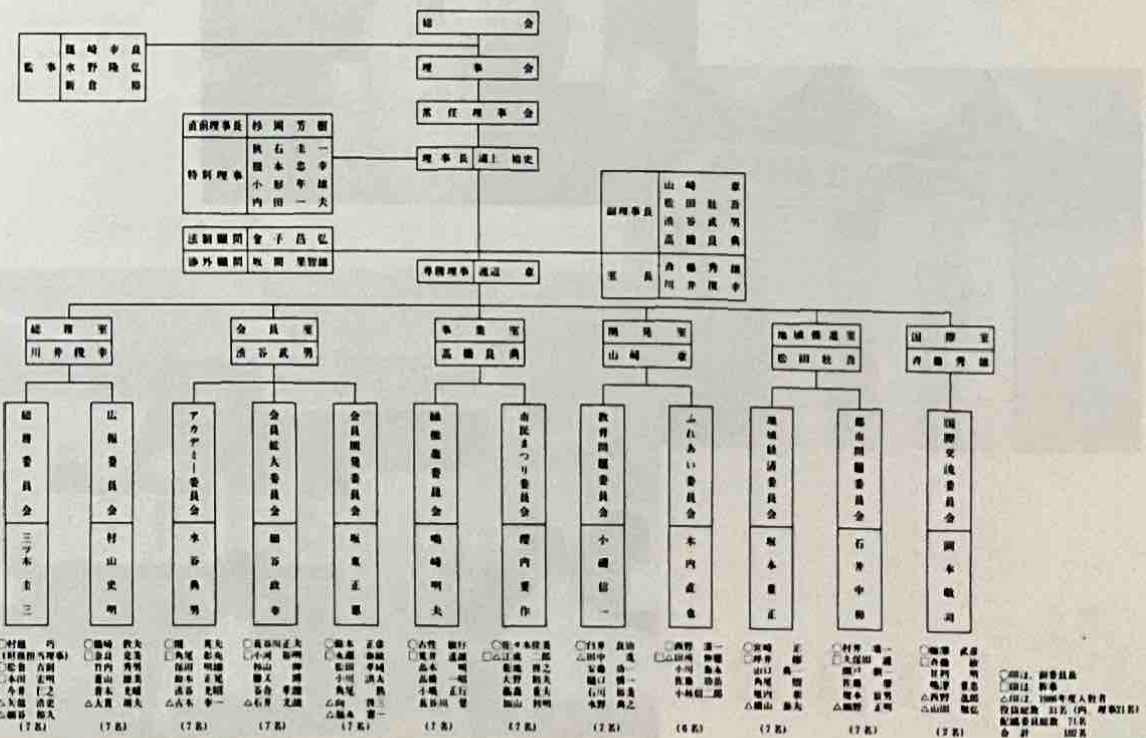
関東地区協議会

地区大会特別委員会	幹事	高橋良典君
意識活性化特別委員会	委員	山崎章君
指導力開発長連絡会議	委員	角尾悟君

神奈川ブロック協議会

会員会議所執行部会議	議長	杉岡芳樹君
//	幹事	川井俊幸君
//	運営委員	松田壮吾君

会員会議所執行部会議	委員	山崎章君
//	委員	渋谷武男君
//	委員	高橋良典君
//	委員	渡辺章君
ブロック会員大会特別委員会	委員	金子昌弘君
会員交流特別委員会	委員	西野清一君
国際問題特別委員会	副委員長	斉藤秀雄君
LOOK FOR かながわ特別委員会	委員	石井中和君
LOOK FOR 行政特別委員会	副委員長	小林信二郎君
会員研修セミナー運営特別委員会	委員	保田明雄君
//	委員	古木幸一君
20周年特別委員	委員	櫻内要作君





理事長
山崎 章

1988 昭和63年

〈JCI主要事業〉

- ・1990年関東地区サミット「相模原会議」開催の決定
- ・第15回市民桜まつりへの参画。
- ・緑化フェア「グリーンパル88」への参画
- ・88'まちづくりフォーラムの開催
- ・三代交流ゲートホールの開催
- ・例会「人生のパスポートそれは感動」丸山浩路氏
- ・例会「一泊：LATプログラム」小宮山君（甲府JCI）
- ・例会「青少年の健全育成」パネルディスカッション
- ・例会「スポーツ交流」米国軍人
- ・新入会員拡大の強化



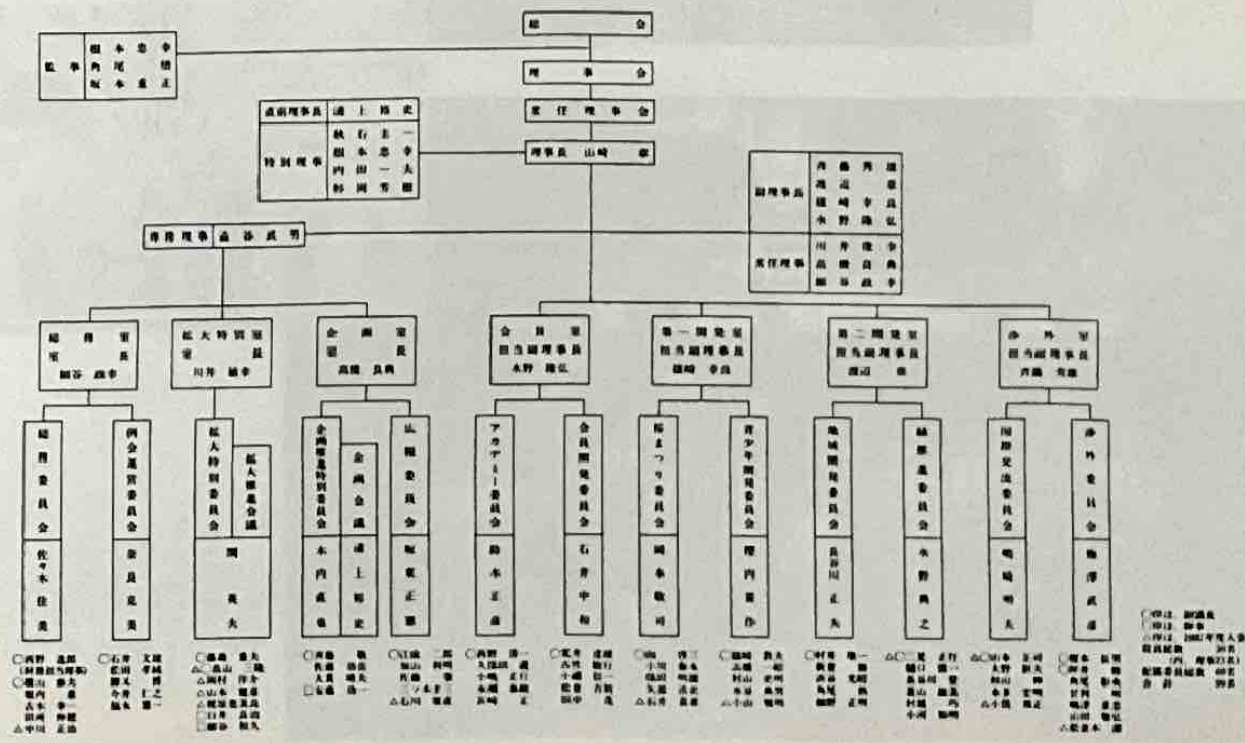


1988年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

(社)日本青年会議所

第2研修委員会	委員	荒井 達雄君
関東地区協議会		
国際委員会	委員長	斉藤 秀雄君
//	委員	山本 正司君
地区大会委員会	幹事	渡辺 章君
//	委員	安藤 功一君
意識活性化特別委員会	委員	水野 隆弘君
神奈川ブロック協議会		
神奈川ブロック協議会	副会長	杉岡 芳樹君
//	運営委員	榎本 辰男君
会員会議所執行部会議	運営委員	篠崎 幸良君
//	委員	斉藤 秀雄君

会員会議所執行部会議	委員	渡辺 章君
//	委員	水野 隆弘君
//	委員	澁谷 武男君
かながわ21世紀ビジョン特別委員会	副委員長	新倉 裕君
//	幹事	水谷 典男君
//	委員	今井 仁之君
JCIアジア太平洋連絡会議	委員	浦上 裕史君
国際交流特別委員会	委員	嶋崎 明夫君
会員交流特別委員会	委員	富山 三隆君
ブロック会員大会特別委員会	委員	杉山 伸君
会員研修特別委員	委員	中川 正治君
高齢化問題特別委員会	幹事	保田 明雄君
//	委員	久保田 護君





理事長
水野 隆弘

1989 平成元年

（JC主要事業）

- ・みんなで相模川フェスティバル'89の開催
- ・夢・相模川こども会議の開催
- ・第16回市民さくらまつりへの参画。
- ・MG研修「ビジネス感性トレーニング」
- ・LD研修「魅力開発プログラム」林和代氏
- ・例会「伸びる企業と危ない企業」早坂茂三氏
- ・例会「JCエンジョイライフ」岩倉副会頭
- ・例会「ふるりの川・相模川」江成常夫氏
- ・例会「25周年の重み…なぜ」鎌田秀則氏
- ・ASPAC'89ヨコハマへの参加





理事長
渡辺 章

1990 平成2年

〈JC主要事業〉

- ・第17回市民桜まつりへの参画。
- ・25周年記念講演の開催（講師 舩添要一氏）
- ・関東地区相模原コンベンション'90の開催。
- ・25周年記念式典の開催。
- ・みんなで相模川フェスティバル'90の開催。



1990年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

日本青年会議所

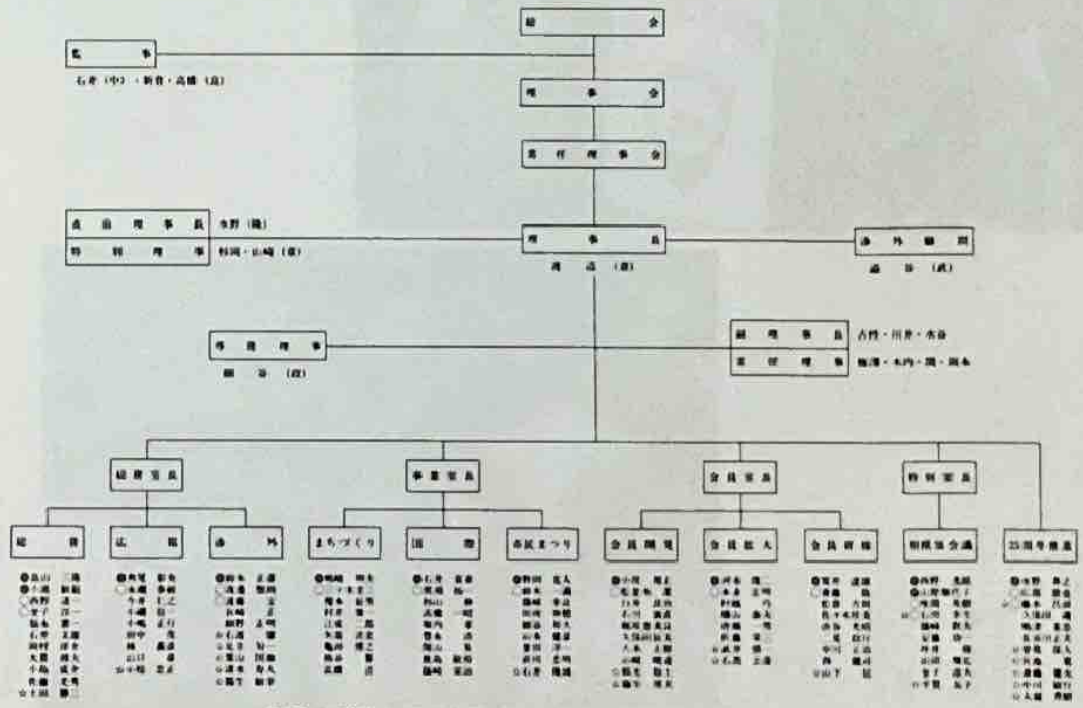
情報ホットライン746会議	委員	細谷 政幸君
グローバルプロジェクト90特別委員会		
	委員	岡本 敬司君
思いやりあるまちづくり開発委員会	委員	今井 仁之君
JCビジネススクール委員会	委員	黒須 祐一君
出版事業特別委員会	委員	唐橋 一男君
指導力開発スクール委員会	委員	渡邊 雅朗君

関東地区協議会

'90関東地区相模原コンベンション	議長	水野 隆弘君
ファッションタウンとまちづくり委員会		
	委員	二見 政行君
人口急増都市問題委員会	委員	金子 渥夫君
交通プロジェクトとまちづくり委員会		
	委員	広部 徹也君

神奈川ブロック協議会

会員会議所執行部会議	代表委員	古性 敏行君
//	委員	川井 俊幸君
//	委員	水谷 典男君
//	委員	細谷 政幸君
会員大会運営特別委員会	幹事	鈴木 正彦君
//	委員	清水 昇人君
国際関係特別委員会	委員	篠崎 栄治君
長期ビジョン策定会議	委員	梅澤 武彦君
レディースアクション推進委員会	委員	山際 暉代子君
//	委員	平賀 友子君
コミュニケーション推進委員会	副委員長	杉山 伸君
研修スクール運営委員会	幹事	荒井 達雄君
//	委員	中川 敏行君
広域政策特別委員会	副委員長	石井 中和君
産業構造改善推進委員会	委員	鈴木 一満君
サーフ90推進委員会	委員	石渡 盛君



◎は理事 ○は副委員長 Gは1989年入会 役員総数29名 0% 理事以上 総職員数92名 自派125名



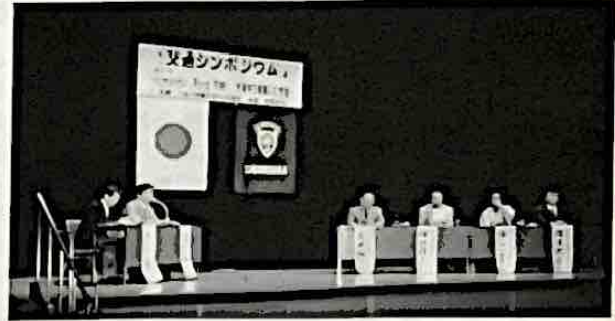
理事長
梅沢 武彦

1991 平成3年

〈JC主要事業〉

- ・第18回市民若葉まつりへの参画
- ・「緑ゆたかな街づくり」チャリティーショー開催
- ・例会「90年代消費トレンドとビジネスチャンス」
福田優二氏
- ・例会「競争社会を生き抜く為のリーダーシップ」
高橋 博氏
- ・交通シンポジウムの開催
- ・例会「姉妹交流10周年をむかへて」飯淵雅敏・根本忠幸先輩
- ・例会「外国人労働者雇用問題」尾源 一氏





1991年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

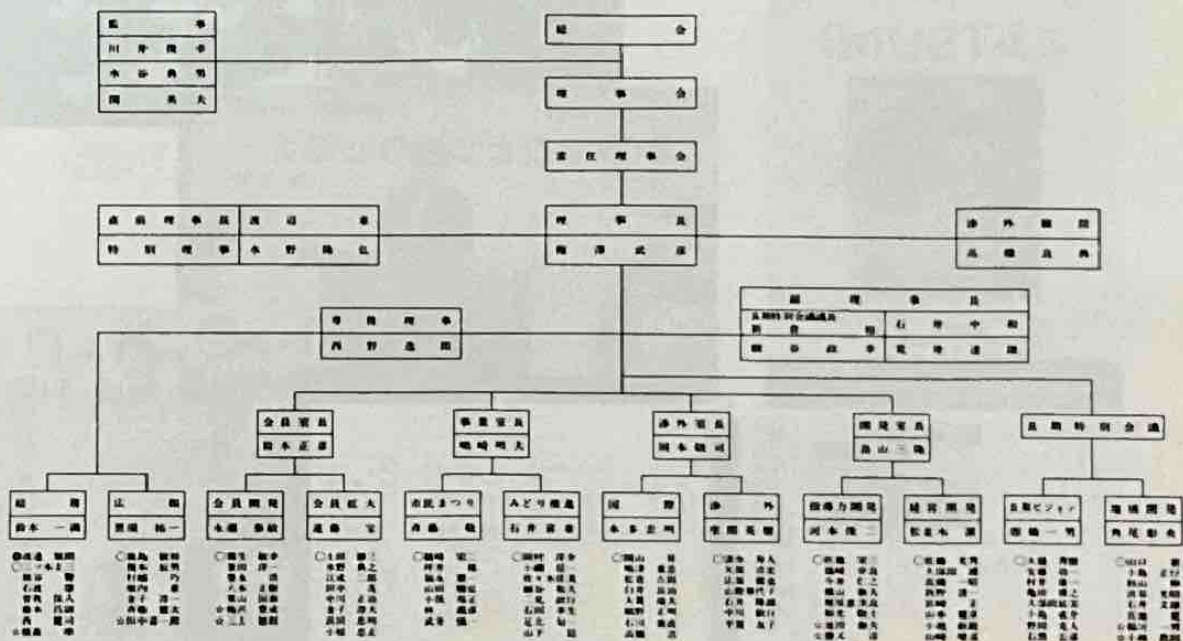
(社)日本青年会議所

政策室青年経済人会議運営委員会	幹事	関英夫君
国際事業委員会	委員	嶋崎明夫君
総合研究所運営特別委員会	委員	唐橋一男君
財団設立推進特別委員会	委員	黒須祐一君
インストラクター研修特別委員会	委員	座間英樹君

神奈川ブロック協議会

会員会議所執行部会議	委員	新倉裕君
//	委員	細谷政幸君
//	委員	石井中和君
//	委員	荒井達雄君
//	委員	西野逸朗君

グローバルCD特別委員会	委員長	高橋良典君
//	幹事	角尾彰央君
//	委員	渡邊雅朗君
「ブロック」物語推進会議	委員	杉山伸君
コミュニケーション推進特別会議	委員	永瀬泰敏君
情報ネットワーク特別委員会	委員	石井喜章君
長期ビジョン策定会議	委員	本多宏明君
首都圏第3空港特別委員会	委員	遠藤宝君
会員大会運営特別委員会	幹事	清水寿人君
//	委員	篠崎栄治君
かながわ特別委員会	委員	小林敦利君
研修スクール特別委員会	委員	石田幸生君
//	委員	土田勝三君
//	委員	関生敏幸君
//	委員	中川敏行君





理事長
細谷 政幸

1992 平成4年

〈JC主要事業〉

- ・第19回市民さくらまつりへの参画
- ・例会、1991年度日本JC副会頭 鈴木宗幸先輩
1992年度日本JC副会頭 山本博史君
- ・海雲台青年会議所創立15周年記念式典への出席
- ・例会「納涼・・相模川高田橋」
- ・例会「すてきなひとづくりセミナー」丸山浩路氏
- ・例会「すてきなひとづくりセミナー」舛川洋栄氏
- ・例会「すてきなひとづくりセミナー」尾上達矢氏
- ・例会「すてきなひとづくりセミナー」マリ・クリスチーナ女史
- ・グリーンウェーブ相模原92への参画
- ・コンサート「KATSUMI」の開催
- ・例会「世界の中の日本人の果たす役割」梅沢重雄氏



相模原市青年会議所
素敵なひとづくりセミナー
JCスクール
開発室

【CONGRATULATE!】
相模原市青年会議所
素敵なひとづくりセミナー
JCスクール
開発室

素敵なひとづくりセミナー
JCスクール
開発室

素敵なひとづくりセミナー
JCスクール
開発室



1992年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

日本青年会議所

政策室第二政策委員会	副委員長	関 英 夫君
//	委 員	田 原 光太郎君
研修室ディベート研修委員会	幹 事	石 井 中 和君
//	委 員	関 谷 千 浩君
地球市民財団推進特別委員会	幹 事	黒 須 祐 一君
//	委 員	野 崎 徹 君
地球の絵画特別委員会	委 員	西 野 遼 郎君
//	委 員	座 間 英 樹君
国境なき奉仕団特別委員会	委 員	永 瀬 泰 敏君
研修室指導力開発研修委員会	委 員	小 川 達 也君
研修室経営開発研修委員会	委 員	萩 原 明 人君

神奈川ブロック協議会

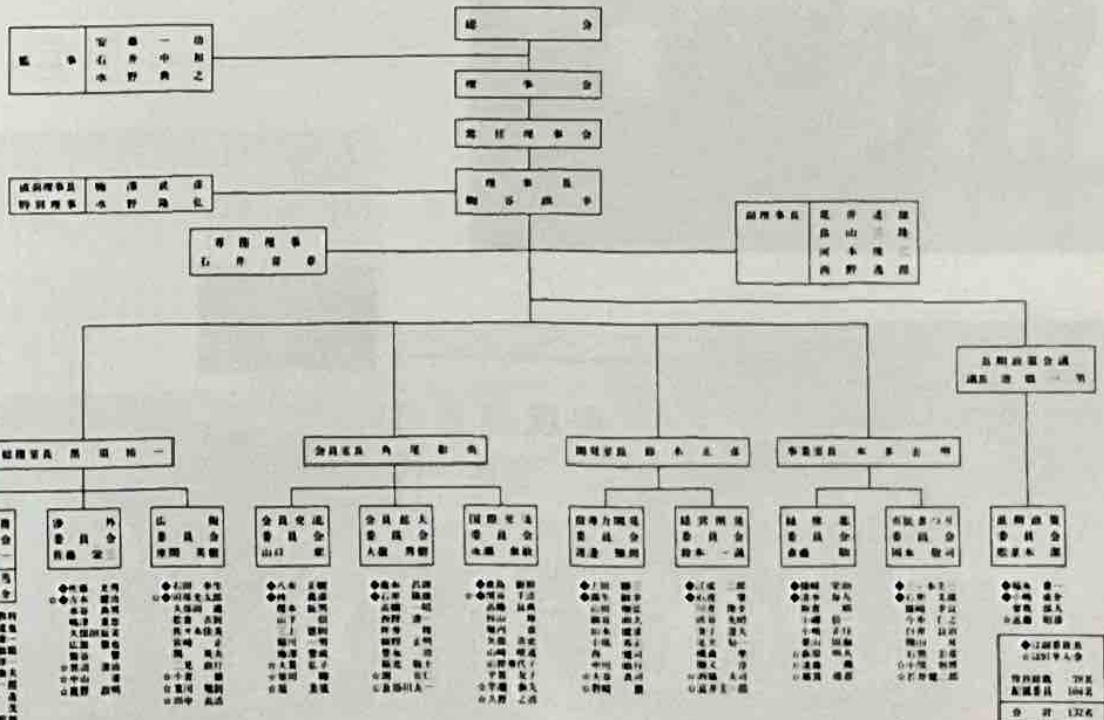
会員大会連絡会議	議 長	梅 澤 武 彦君
//	幹 事	渡 邊 雅 朗君
//	委 員	近 藤 昭 彦君
//	議長セクレタリー	唐 橋 一 男君

会員会議所執行部会議

//
//
//
かながわデザイン会議
首都圏第三空港特別委員会
コミュニケーション推進特別委員会
//
ふる里地球運動推進特別委員会
広報特別委員会
地球ビジョン策定特別委員会
研修スクール特別委員会
//
//
総務・財務特別委員会
//

代表委員

委 員	荒 井 達 雄君
委 員	島 山 三 陸君
委 員	河 本 俊 二君
委 員	西 野 遼 郎君
委 員	岡 村 洋 介君
委 員	小 林 教 利君
幹 事	篠 崎 栄 治君
委 員	梅 澤 豊 成君
委 員	清 水 寿 人君
委 員	霧 生 敏 幸君
委 員	二 見 政 行君
委 員	佐 藤 光 秀君
委 員	大 谷 真 司君
委 員	小 倉 徹 君
委 員	西 脇 大 司君
副委員長	岡 本 敬 司君
委 員	鹿 島 敏 裕君





理事長
荒井 達雄

1993 平成5年

〈JC主要事業〉

- ・第20回市民さくらまつりへの参画
(夜桜コンサートの開催)
- ・ふれあいキャンプの開催
- ・野外コンサートの開催 大島彰氏
- ・JC東京会議への参加
- ・例会「感性豊かな人づくりセミナー」三浦道明氏
- ・例会「自己理解、他者理解」研修インストラクター
- ・例会「出向、未来へ」JC運動 岡田伸浩会頭



相模原JC
第20回市民さくらまつり

本日は、市民さくらまつりに参加し、夜桜コンサートを開催しました。会場には、市民のみなさんが多く集まり、夜桜の美しさを堪能されました。また、夜桜コンサートでは、大島彰氏の演奏による「夜桜」が、会場を盛り上げました。市民のみなさんの笑顔が、私たちにとって最高の励みとなりました。今後も、市民のみなさんと一緒に、相模原のまちを盛り上げてまいります。



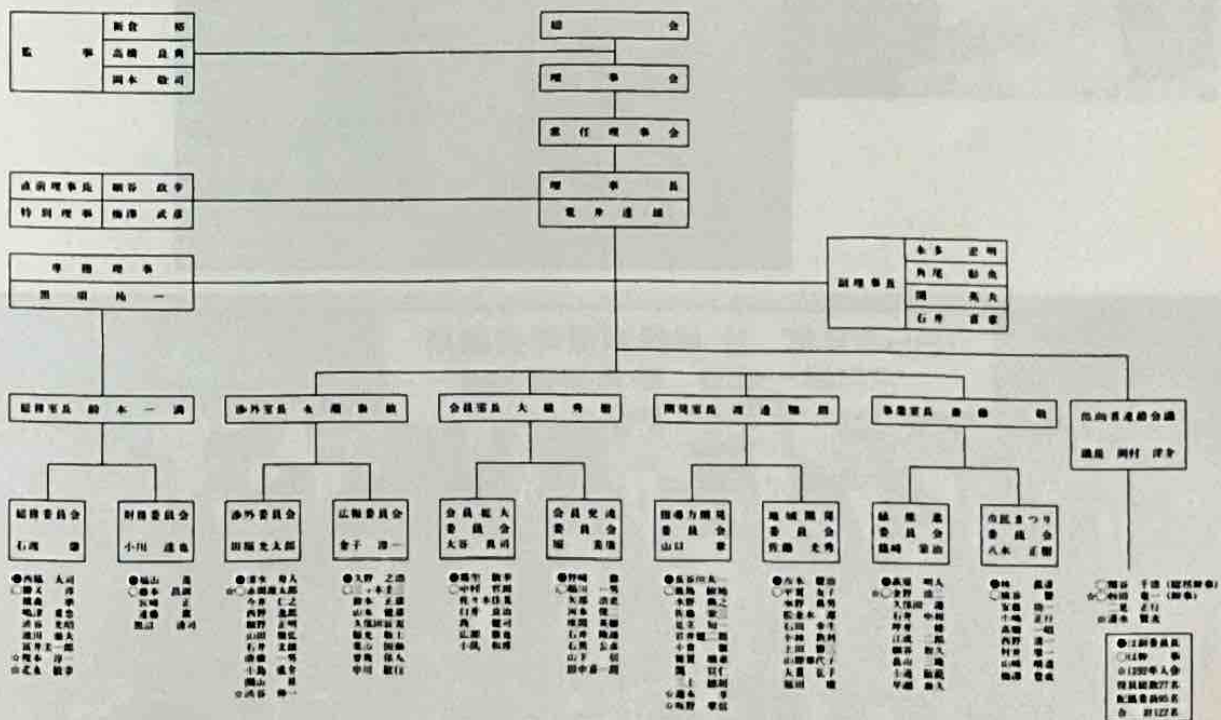
1993年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

日本青年会議所

広報渉外特別委員会	副委員長	細谷 政幸君
//	委員	岡村 洋介君
//	委員	二見 政行君
「まちの応援なんでも相談室」委員会		
	委員	関 英夫君
出版事業特別委員会	委員	角尾 彰央君
国境なき奉仕団特別委員会	委員	永瀬 泰敏君
リサイクルモデル都市構想委員会	委員	今井 仁之君
財政特別委員会	委員	岡本 敬司君
環境インストラクター養成委員会	委員	黒沼 清治君
研修インストラクター特別委員会	委員	瀧本 亨君
まちづくりデザイン会議推進委員会	委員	渋谷 伸一君

神奈川ブロック協議会

会員会議所執行部会議	代表委員	本多 宏明君
//	委員	角尾 彰央君
//	委員	関 英夫君
//	委員	石井 喜章君
広域ビジョン策定委員会	幹事	小林 敦利君
//	委員	清水 勇人君
コミュニケーション推進委員会	幹事	霧生 敏幸君
//	委員	林 義彦君
会員大会運営委員会	幹事	野崎 徹君
//	委員	萩原 明人君
まちづくりデザイン会議運営委員会	委員	雄賀 靖章君
広報委員会	委員	中川 敏行君
神奈川TOYP大賞運営委員会	委員	石井 文雄君
ふるさと地球運動推進委員会	委員	関谷 千浩君
研修スクール運営委員会	委員	赤間 源太郎君
//	委員	清水 賢次君
//	委員	杉田 竜一君





理事長
本多 宏明

1994 平成6年

〈JC主要事業〉

- ・第27回市民さくらまつりへの参画
- ・例会「聞いて見につく、やる気満々！」志水陽洗氏
- ・例会「一泊、新年会及び研修会」
- ・クリーン大作戦LOVE相模原'94の開催
- ・相模川クリーン作戦への参画
- ・例会「環境問題等・・・」環境対策課、佐藤俊一氏
- ・「3 LOM合同例会」町田JC・多摩JCと開催
- ・恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」の譲り受け





1994年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

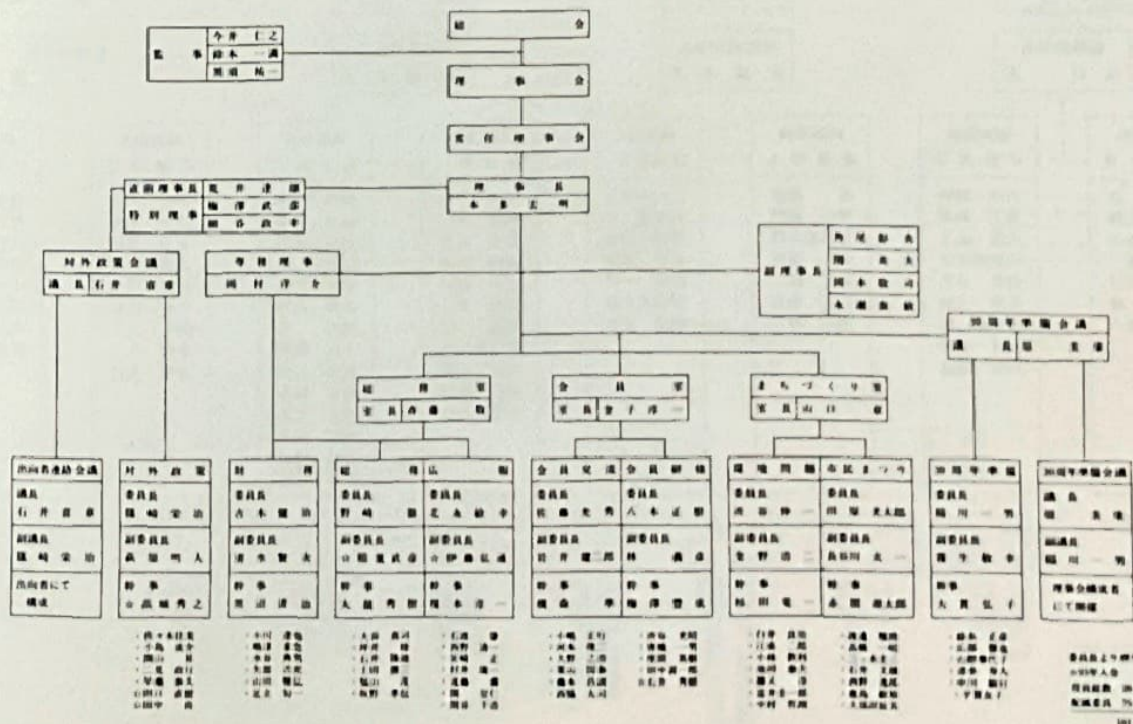
(社)日本青年会議所

全国大会特別委員会	副委員長	細谷 政幸君
//	委員	永瀬 泰敏君
//	委員	二見 政行君
環境政策委員会	委員	渋谷 伸一君
関東地区協議会		
財政特別委員会	委員	荒井 達雄君
//	委員	小川 達也君

神奈川ブロック協議会

財政局	財政局長	荒井 達雄君
//	局長セクレタリー	小川 達也君
会員会議所執行部会義	代表副理事長	角尾 彰央君
//	専務理事	岡村 洋介君
//	代表監事	鈴木 一満君

神奈川ブロック事務局	運営委員	高城 秀之君
財務担当者連絡委員会	幹事	林 義彦君
//	委員	古木 健治君
まちづくりビジョン推進委員会	委員	清水 賢次君
//	委員	杉田 竜一君
もったいない運動推進委員会	委員	篠崎 栄治君
広報・渉外委員会	委員	北 永敏幸君
研修スクール運営委員会	副委員長	小林 教利君
//	委員	田中 尚君
2LOMネットワーク推進委員会	委員	野崎 徹君
//	委員	榎本 淳一君
会員大会運営委員会	委員	原 美廣君
J C運動活性化委員会	委員	岡本 敬司君





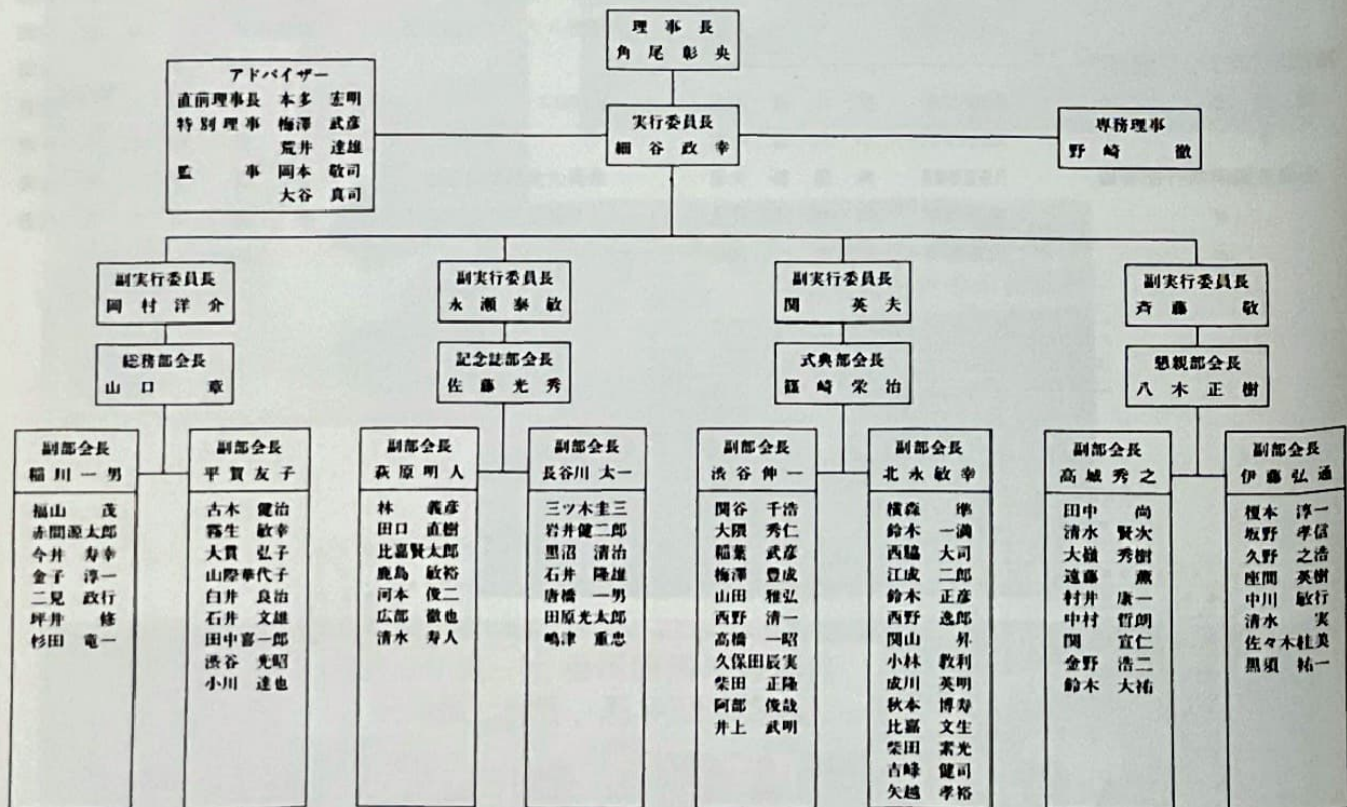
理事長
角尾 彰央

1995 平成7年

〈JC主要事業〉

- ・例会「新年総会及び賀詞交歓会」
- ・例会「市長例会」
- ・例会「感謝の気持ちを形にして、一人一人にできること」
- ・例会「ブロック会長公式訪問、2 LOM合同例会」の開催
- ・例会「対話力と人間関係」永田 功氏
- ・第22回若葉まつりへの参画
- ・第一回わんぱくグリーンフェスティバル開催
- ・30周年記念式典開催

30周年実行委員会組織図



1995年度(社)相模原青年会議所 出向者名簿

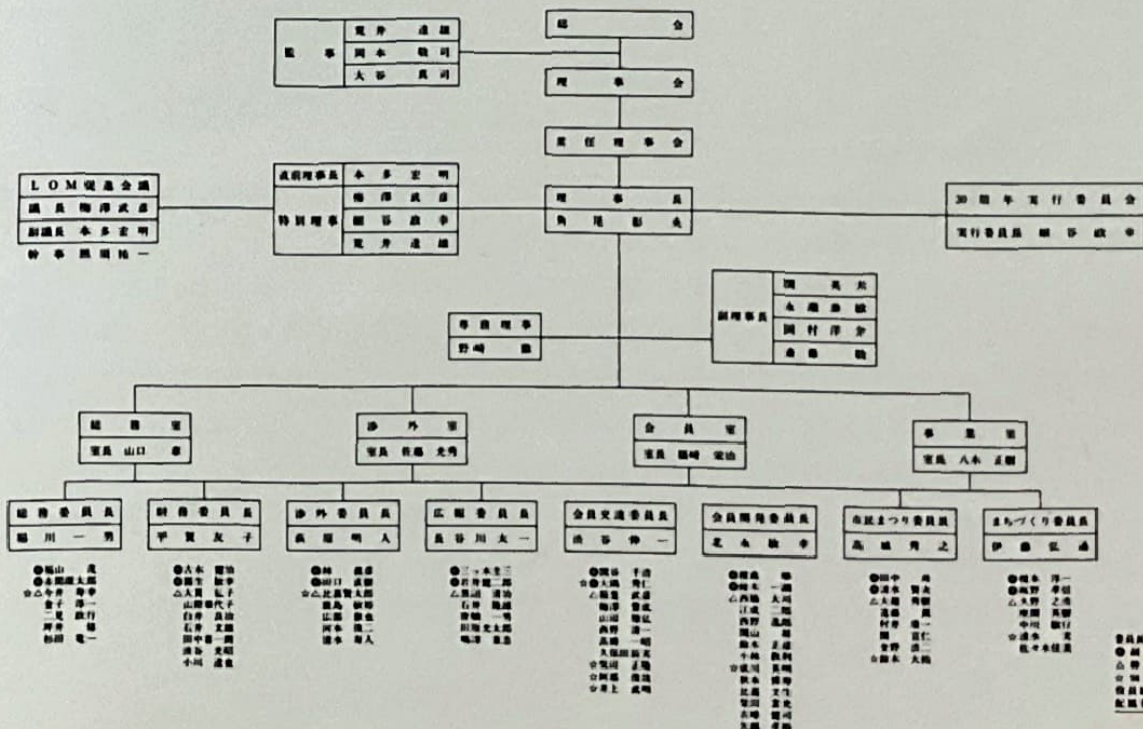
日本青年会議所

C I S 北方領土関係委員会 委員 永瀬 泰敏君
 まちの応援なんでも相談室委員会 委員 大隈 秀仁君

神奈川ブロック協議会

監事 細谷 政幸君
 会員会議所執行部会議 代表副理事長 永瀬 泰敏君
 // 専務理事 野崎 徹君
 // 代表監事 岡本 敬司君
 神奈川ブロック事務局 運営委員 日嘉 賢太郎君
 // 運営委員 山際 華代子君
 // 運営委員 成川 英明君
 地球市民ジュニア推進連絡協議会 委員 鈴木 一満君

神奈川まちづくりネットワーク委員会 委員 渋谷 伸一君
 ひとづくり研修委員会 副委員長 斎藤 敬君
 // 委員 八木 正樹君
 // 委員 萩原 明人君
 神奈川TOYP大賞運営委員会 委員 小林 教利君
 会員大会運営委員会 委員 清水 賢次君
 地球市民運動推進委員会 委員 篠崎 栄治君
 J C 自己改革推進委員会 幹事 久野 之浩君
 // 委員 清水 実君
 広報渉外委員会 委員 坂野 孝信君
 財務担当者連絡委員会 委員 平賀 友子君
 // 委員 霧生 敏幸君



1995 平成7年

相模原市 相模原市自然環境部(株)写真269

相模原の自然



樺の若葉

会報一第頁「

「会報一第頁」

「会報一第頁」

SAGAMIHARA JC NOW

(社)相模原青年会議所の現在

「会報一第頁」

「会報一第頁」

「会報一第頁」



Main body of the page containing several paragraphs of text, all of which are extremely faded and illegible.

1月第一例会

■新年総会及び賀詞交歓会■

～(社)相模原青年会議所をアピールする賀詞交歓会～



1995年1月14日(土)17:30～19:30

ホテルグランドパレス相模原

担当：渉外室 渉外委員会

1995年度 (社)相模原青年会議所通常総会



新年総会では、昨年度の事業報告、決算の承認、監査報告が行われ、1995年度のスタートに際し、実りあるJC活動の展開を誓い合い、メンバー同士気持ちを新たにしました。

続いて開かれた賀詞交歓会は、(社)相模原青年会議所創立30周年を迎えるにあたって、当LOMの記念式典及び活動内容等を来賓他LOMにアピールし相互関係を深める為行われた。

本多宏明直前理事長の開会の辞で幕を開け、角尾理事長が「30周年という一つの大きな節目を迎え、今年をあえて初心に戻ったうえでJCにふさわしい積極的な活動を展開していき、実際の事業では環境問題をはじめ、市内のさまざまな問題に終点をあて、明るい豊かな街づくり事業を展開していきたい」と今年度の抱負を力強く語った。また、来賓として館盛静光相模原市長、篠崎源太郎相模原商工会議所会頭、秋本幸作相模原市議会副議長、勝治雄(社)日本JC評議員、関東地区神奈川ブロック協議会会長から来賓の挨拶があり、鏡びらき、宮崎直道シニアクラブ会長の乾杯の音頭と続き、賑わいのある会となった。

相模原JCの今年のスローガンは、「感謝の気持ちで30周年守り育もうみどり豊かな相模原、上げようまちづくりひとつづくり」を挙げた。

2月第一例会

市長例会

1995年2月23日(木) 19:00～

相模原商工会館 4F大会議室

担当：会員開発委員会



1995年2月23日に相模原産業会館に於いて、相模原市長館盛静光氏をお招きし社団法人相模原青年会議所恒例の「市長例会」が2月第一例会として開催されました。

当日は、館盛市長に約1時間にわたる講演をいただき、行政の考える明るい豊かなまちづくりとは何か、又、明るい豊かなまちづくりを行うために行政が青年会議所に何を期待しているのかをお話戴き、角尾理事長率いる相模原青年会議所の行政との係わりかたや会議所運動の方向性を再確認出来ました。

尚本年度は、相模原青年会議所の創立30周年ということで、館盛市長からは第一回市民桜まつりの開催にあたっての当時青年会議所メンバーだった先輩方との思い出話なども聞け、とても有意義な例会となりました。

3月第一例会

会時一第民S

感謝の気持ちを形にして 一人一人にできること



1995年3月10日(金) 18:00~
相模大野グリーンホール
担当：LOM促進会議



1995年3月10日、相模大野グリーンホールに於いて社団法人相模原青年会議所3月第一例会が開催されました。

この例会は、角尾理事長が提唱する、青年会議所運動の原点に帰り、組織が何をするかではなく、一人々の青年に何が出来るかをまず考えてみようという趣旨のもとに、梅沢特別理事を議長とするLOM促進会議メンバーを中心に企画した例会です。

例会の内容はメンバー一人々がペアレンツチケットを購入し、そのチケットで普段観劇などの機会の少ない知的障害者の方々を、民俗歌劇団「わらび座」の公演に招待し、舞踊劇と日本古来の民俗芸能を見てもらい健常者と共に、心の豊かさを感じてもらおうというもので、例会当日は社会福祉法人たんぽぽの家と社団法人虹の家から86名の方々をお招きし、相模原青年会議所メンバーと楽しい一時を過してもらったと思います。

この例会終了後、角尾理事長は「これを機会に明るい豊かなまちづくりを目指す団体としていままで交流の少なかった知的障害者の人達と接する中で、明るい豊かなまちづくりとは何なのかをメンバー一人々に考えてもらいたい。」と語られていました。

4月第一例会

神奈川ブロックの 「過去・現在・未来」



1995年4月13日(木)18:30~22:00

ホテルラポール千寿閣

担当：渉外委員会

神奈川ブロック協議会正副会長及び、役員よりブロックの活動内容、JCマンとしての在り方等をテーブルディスカッションで検討し、歴代ブロック会長の中村宣勝先輩を講師として、JC活動の経験、今後のJCへの要望などについて講演をして頂いた。又、隣接LOMの(社)津久井青年会議所と合同で4月第一例会を開催し、メンバー間の交流及び友情を深めた。

内容としては、合同例会を2部構成で行ない、1部として、神奈川ブロック正副会長及び役員と共に入会3年未満の会員を中心に正会員により、出向とはどのような事か、ブロックの役割、JCマンとしての在り方等を議題としてテーブルディスカッションを行ない、2部として、中村先輩より今のJC、今後のJCに対する要望、期待について講演をして頂き、今後のJC活動の参考になる様な内容で行われた。

6月第一例会

【対話力と人間関係】

～自己を見つめる～



1995年6月15日(木) 19:00～

相模原商工会館 4F大会議室

講師：永田 功氏

(エヌ・アイ・エス・アカデミー院長)

担当：会員開発委員会

〔講演の梗概〕

自己と他者という関係性に埋没してあんがい見落とされがちなのは、肝心の自分自身に対する認識と洞察である。そもそも対人関係にはふたつの立場があり、それは対外的な自己と他者という関わりと、対内的な自分自身との関わりである。そして前者を円滑に進めるためには、後者即ち自己のホンネ、価値観、思考パターンといった部分に対する明確な理解が前提となるであろう。というのも自己のそういった根幹となる部分をおろそかにしての他者との関係性の構築は、他者の本心とはズレた合意をみたものの結果として人間関係を危うくしたり、不本意なものになりがちなのである。

他者との関係性をより良い方向に導くための前提ともなる自己との関係性が、きちんと構築できていない人に共通する言動がある。例えば

- 何事につけて相手に理由を糺したがる。 ●相手の問いかけに過剰に釈明したがる。
- 人に気をつかうあまり人を避けたがる。

こうした事例は日常ひんぱんに散見されるものであるが、すべて理想的な自我像にこだわるために心の平衡・健康をそこなっている状態であり、気苦勞のわりには人間関係の思わしくない、悪循環に陥る危険性を孕んでいる。こだわる心は不安と恐れを呼びさまし、決断を鈍らせ行動をあやまるか、せっかくの好機を逸してしまう。

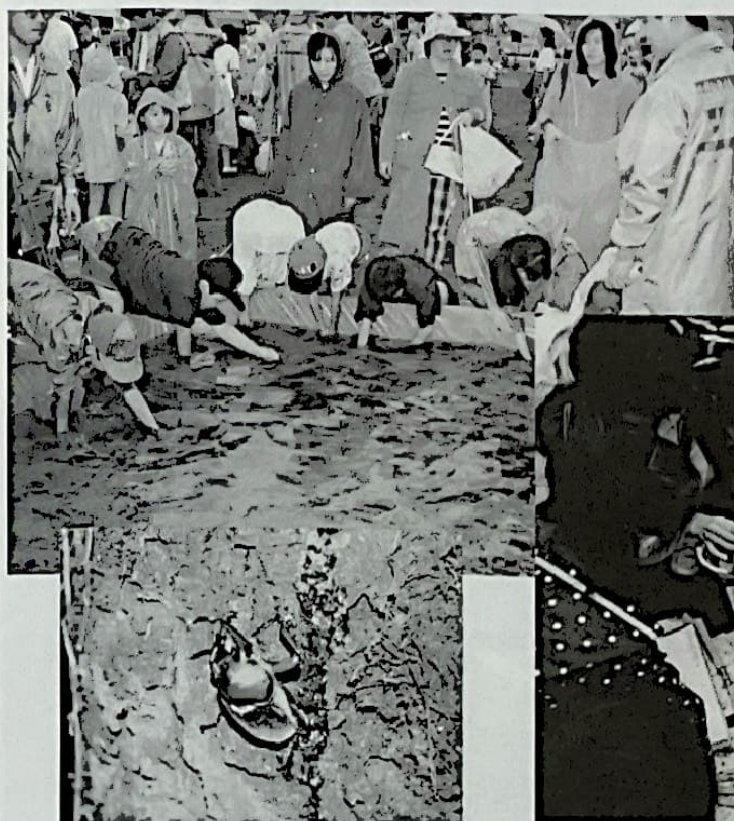
私たちのまず第一に為すべきことは、理想の自我像とありのままの実際の自分との葛藤を解消することである。自分の真情を素直に吐露すること、心から納得したうえで選択することは、たとえそれが相手と衝突する結果となっても、後遺症ののこるような深刻な対立をきたすことはなく、かえってお互いの理解がすすみ信頼の絆を深めることにもなる。

さらに理想的観念的な自我像へのこだわりを捨て、背伸びしない自らのホンネにもとづいた柔軟な思考が求められる。教条的でかたくなな心はそれこそ人間関係の隘路に迷い込むこととなる。考え方をあらため自らの感情と行動が変われば、相手のかたくなな心も、ときほぐすことができる。何事につけ言い訳を絡める姿は自己中心性の投影像であり、私たちは自分をゆるすとともに相手の立場も認め、等身大の自己をあるがままに受け容れたい。

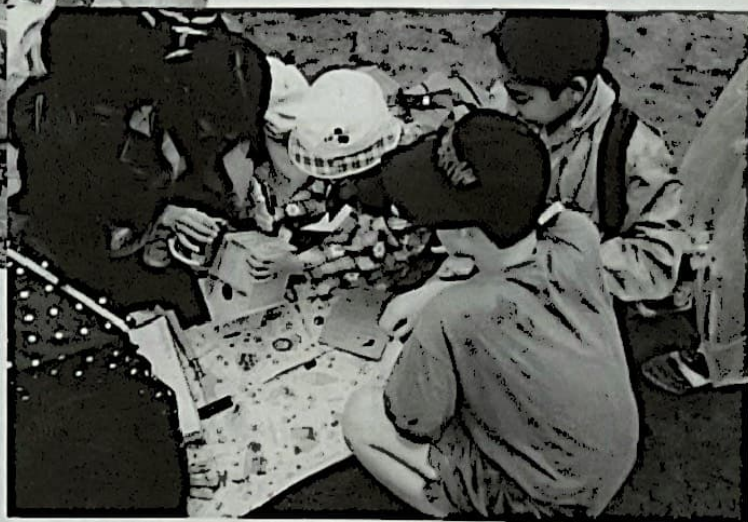
7月第一例会

第1回わんぱくグリーンフェスティバル

～見守ろう みどり 育もう 心の豊さ(どろん子の里作り元年)～



日 時：1995年7月8日（土）
8：30～16：10
会 場：相模原市立麻溝公園
担 当：まちづくり委員会



次世代に担う子供たちに、環境問題の重要性、特に緑の大切さを認識してもらうとともに、直接生き物に触れることで、身近な自然にどろんこになって親んでもらうことを目的として、『第一回わんぱくグリーンフェスティバル—どろん子の里作り元年』を開催した。

当日は小雨の降るあいにくの空模様の中、会場となった相模原市立麻溝公園には、保護者を含め約600人の参加者が集まり、子供たちが生き物、緑などの自然と直接触れ合う場として、野鳥の巣箱作りをはじめ、どじょうのつかみ取りやザリガニ取り、カブト虫探しなどのイベントを行い、公園内に、1本の大きな桜の木を植え、その回りに苗木を植える記念植樹を行い、生き物、緑などの自然と直接触れ合う子供たちの顔には、喜びが満ち溢れていた。

また、小学校4年生を対象に、将来の夢などをハガキに書いてもらい、内包したタイムカプセルに入れ埋設し、10年後の西暦2005年に開封し、参加者に返送することとした。

市民まつ



市民まつりは昭和49年にその第一回が、当時の市の人口を表題にうたって“35万人のふるさとづくり”というテーマのもとに、全市的な規模で開催されました。

以来、本年に至るまで「ふるさと意識の高揚」をその主目的として掲げながら、22年の歴史をきざみつつあります。

市民まつりはその開催日を毎年4月の第二土・日曜日にとり、市内各所の桜の名所、わけてもメイン会場である市役所さくら通りの桜並木が見頃を迎える時分なので、桜まつりとしてひろく市民に親しまれています。まつりのにぎわいと満開の桜という心浮き立つような要素が相乗して、市民および近郊に在住する人たちが世間を問わずだれでも気軽に楽しめるおまつりとなっています。

ただし4年に一度は地方選挙の日程的な事由によりまして、1カ月おくれて5月に若葉まつりとして開催されています。大規模な街路樹や公園の整備、そして市内各地の緑地の保存…と、県内有数の緑の豊富な街として知られる相模原市におきましては、5月の新緑に陽光が照り映え、木々の葉をふるわす薫風が初夏の到来を告げるこの頃も、また独特の味わい・風情が感じられる好季節として、桜の頃とはべつの趣のあるまつりのステージを提供してくれています。



りの歴史

市民まつりのそもそもの誕生の趣旨というのは、昭和40年の16万余の人口がその後10年たらずのあいだに20万人ほども増加し、ほんらい相模原がふるさとではない市民がかなり多くなったことから、何か市民の気持ちをひとつにするような体験を提供しよう、皆が居住するこの街を胸を張り誇りをもってふるさとと呼べるようになるような楽しいおまつりを実行しよう…という気持ちから出発しています。今では市民まつりもすっかり市民のあいだに定着し、ものごころつく頃からこのおまつりに親しんでいる子供たちはもちろん、大人たちもまた世代・職場・地域を越えて誰もが楽しめるこのおまつりを、支持し自由に参加し、知人と誘い合わせながら気軽に会場を訪れています。昭和63年から始まったミスさがみはら、そして近年には夜間のライトアップによる夜桜見物など、その楽しみの様式や幅もひろがりを見せ、規模の面でも内容的な部分も

ますます充実してきています。これからも相模原市の発展と歩調を合わせて、市民まつりはさらにその存在意義をたかめ、相模原市を語るうえで忘れることのできない重要なファクターとして位置づけられることであらう。



相模原の自然



ショウヒタキ

相模原青年会議所30周年誌

～ 青年野火連興典・勇市光朝盤語～

SAGAMIHARA JC 30th ANNIVERSARY

(社)相模原青年会議所30周年

「一歩一歩、一歩一歩」を繰り返して、今日まで歩んできた。これからも、一歩一歩、一歩一歩、歩んでいく。歩んでいく。歩んでいく。



ア・レ・コ・ラ・タ・ス・カ・ラ・タ・ス・カ・ラ・タ・ス

相模原青年会議所は、1963年に設立された。30年が経ち、今日まで歩んできた。歩んでいく。歩んでいく。歩んでいく。

「一歩一歩、一歩一歩」を繰り返して、今日まで歩んできた。これからも、一歩一歩、一歩一歩、歩んでいく。歩んでいく。歩んでいく。

相模原青年会議所は、1963年に設立された。30年が経ち、今日まで歩んできた。歩んでいく。歩んでいく。歩んでいく。

「一歩一歩、一歩一歩」を繰り返して、今日まで歩んできた。これからも、一歩一歩、一歩一歩、歩んでいく。歩んでいく。歩んでいく。

30周年記念対談

相模原市

(社)相模原青年会議所

～館盛静光市長・角尾彰央理事長～

日時：1995年7月19日(水) 午後2時～3時

場所：本庁舎2階 市長室

出席者：(JCメンバー) 角尾彰央理事長、永瀬泰敏理事長(コーディネーター)、
野崎徹専務理事、長谷川太一広報委員長、三ツ木圭三広報副委員長



館盛
静光
市長



角尾
彰央
理事長



永瀬
泰敏
副理事長

1. JCとの関わり・思い出について

永瀬泰敏副理事長
(以下、コーディネーター)

館盛市長におかれましてはお忙しい公務のなか、私ども社団法人相模原青年会議所のために貴重なお時間をさいていただきまして誠にありがとうございます。

本日は、相模原青年会議所の創立三十周年ということで第三十代理事長であります角尾彰央理事長と、いくつかのテーマに沿ってご対談をお願い致します。

それでは最初のテーマと致しまして、私ども社団法人相模原青年会議所と行政との緊密な協力態勢の端緒と言えますのが昭和49年“35万人のふるさとづくり”を謳って開催されました市民桜まつりでありました。当時は第九代理事長川合貞義先輩が中心となって第一回目の市民まつりに携わったわけではありますが、そのあたりのところからお話をお伺いしたいと思います。

角尾彰央理事長
(以下、理事長)

ただいまコーディネーターのほうから最初のテーマの背景となる事情について説明がありましたが、青年会議所としましては行政と協力し合いともに手をたずさえて、直接的なかたちで市民に対する大きなはたらきかけ・事業ができましたのが、この市民まつりであったと理解しております。また信頼をうけ、そういう機会を与えていた

いただきましたことをあらためて感謝申し上げる次第であります。

この市民まつりを中心としたJCとのかかわりのなかで、市長におかれましても思い出話は尽きないことと思いますが、どうかそのあたりのエピソードをお聞かせ願えましたら幸いです。

館盛静光市長

(以下、市長)

市民まつりは22年にわたって行政とJCとの信頼関係を深めるよい機会でありました。ですが私の記憶では第一回目の市民まつりをずっと遡って昭和40年、たしか11月でしたか市民会館に於ける相模原青年会議所の発会式に出席したことを覚えております。その頃はまだ青年会議所やJCという呼称も一般の人々には馴染みが薄く、どういふ活動をする団体か理解が浸透してはいなかったと思います。

そのJCとの出会いの場に於いて、私は当時教育長をしており、なにか青少年の健全な育成のために関心を示していただけないか…という期待を抱いてお話を伺っていたところが、交通問題について力をいれておられることがわかりました。それはまもなく具体的な成果として実を結び、通学路の危険ゾーンに事故防止のための標識（ポールと金属製の扇型サインで構成）が設置されることになりました。

それから講演等でJCの皆さんとの交流が続き、やがて市民まつりのなかでJCのまちづくりの理念とするところも大きく花ひらくことになります。JCの発足当時16万6千人を数えた市の人口も、10年後にはプラス20万人となり、その急激な人口増加のなかで“市民の手による市民のためのお祭り”という志を原点として、JCの皆さんが率先して市内各団体にはたらきかけ、こんにちに至っては他都市に模倣されるほどのスケールのものになっております。これもJCの皆さんが当初から、地域や職場や世代の垣根をこえた全市的なお祭りをめざしていったことが、こんにちの隆盛をみたカギであったのではないかと考えます。どうかこれからもリーダーシップを発揮して、ふるさと意識・郷土意識の高揚に尽力していただくことをお願い致します。

理事長

市長のお話にありましたように、市民まつりもかなり規模が大きくなりました。私たちとしましては今後の検討課題として、相当規模のなかでも安全・円滑に運営できますよう、会場・交通・安全対策といった問題点について担当セクションにおいて協議を重ねていく所存であります。

また既に成熟した市民桜まつりとはまた個別の、グリーン・フェスティバルに代表される“緑の啓蒙運動”についても市民の関心を惹起し、全市的な催事に育て上げるべくウェイトをうつしていく方針です。

2. 国際交流について

コーディネーター

国際交流という分野におきまして、本市では既に昭和60年には中国・無錫市と、そして平成3年にはカナダ・スカボロー市と友好姉妹都市としての結びつきを果たし、さまざまな交流事業を展開しております。また当青年会議所におきましては、昭和57年に大韓民国・釜山海雲台青年会議所との姉妹JC関係を結び、やはり活発に友好をはかっております。そうしたなかで、市長の感得せられる国際交流の素晴らしさ・難しさをお話いただけますでしょうか。

市長

国際交流をはかる前提となる祈りにも似た気持ちというのは、言葉や習慣・民族の違いを超えて、お互い知り合い親しみ合うことによって恒久的な平和と友愛の情をはぐくむことにあります。現在市内にもおおぜいの外国人居住者の方々がおり、市民同士の交流もさまざまなかたちを通して実践されております。そして市としてはさらに海を越えた友愛の情の発露として無錫市と、さらにスカボロー市と姉妹都市の提携を結びました。提携先の選択につきましては市民の声や大使館の推薦を考慮し、議会にも諮り調査研究を重ねて現在ふたつの都市と姉妹締結に至っております。相互に訪問団が行き来することはもちろん、なかでも子供たちのグループが、純真でみずみずしい感性で他国の文化を受けとめ、理解し合うことの大切さを学びつつあることに大きな意義と手ごたえを感じております。

理事長

相模原JCとしましても市のこれまでの姉妹交流の実績をふまえて、無錫市、そしてスカボロー市との関係性を今後のJC運動の方向性とも重ね合わせて捉えていったらどうか…という考え方も出てきています。そうしたなかで期待したいのは、これまでJC組織の存在しなかったロシアに先般ようやくひとつそれが誕生し、その機運に乗って同じ共産圏である中国にもJCをつくることができれば、さらに言えば無錫市に相模原JCがスポンサーとなって中国史上初の青年会議所を誕生させることができれば…ということです。

市長

それは先見の明るいたいへん素晴らしいお話です。思想・心情の違いを超えて、国を思いより良い社会を願う若者の情熱は共鳴し合うものがあると思います。実現の可能性もあるのではないのでしょうか。かの地には知人も多くこんどテーブルを共にした折りにぜひ提案したいと思います。

理事長

市長にそう言っていただけると非常な力を得た思いが致します。たとえすぐにはJC誕生とならなくても、より密接な交流を願う若者の熱意や機運の盛り上がりはしっ

かり伝えられるのではないのでしょうか。その件につきましては相模原J Cのなかでもさらに深く勉強していく所存であります。

3. 自然災害の対策・市の対策について

コーディネーター

不幸なことに本年1月17日に発生しました阪神淡路大震災では多くの方々犠牲となり、いま尚現地では家や職を失った人たちの窮状が伝えられております。

当市におきましては広域避難場所の確保や緊急時の備蓄といったハード面、市内市外両面における協力態勢・支援態勢の整備といったソフト面共に充実していると聞き及びますが、市長のお立場からの先の大震災という実例をふまえた上での防災についてのお考えをお伺いしたいと思います。

市長

先の大震災は、まさに関東大震災いらいの大都市直下型地震による災害であり、従来の地震対策として予測されていた規模をはるかに上回るものでした。かかる事態においても市民の生命を守り財産を守る…という観点から、防災計画も基本駅・抜本的な見直しをすすめております。ひとつにはこれまで消防本部が中心になって立案し、対策実行プランを整えていたものとタイアップするかたちで、市のなかにも防災計画にたずさわる部署を設けてあい協力しながら防災計画の策定を練り直しております。それは早急に取り組むべき課題ではありますが拙速に陥ることを避け、しっかりした最新のデータを組み込みつつまもなく発表できる見通しです。

理事長

先の大震災後3日目にJ Cメンバー有志でボランティア活動のため現地を訪れ、その後も何度も現地入りして得た実感として、やはりこういう広域災害に対処するには行政と住民との緊密な協力態勢が重要であることをあらためて認識しました。

住民＝被害者、行政＝救援者という一方通行の関係性だけでは復興もはかどらず、地元主婦グループによる炊き出しにみられるようなたくましい住民パワーも効率よく引き出すことができないと思います。住民と行政が一体となって事にあたるのが大切で、いつ起こるかわからない防ぎようのない災害であるなら、いつ起こっても被害を最小限に食い止められるだけの防災意識を住民の側ももつ必要があります。万一の際のプール水の浄化再利用システムなど、行政の提供するハードウェアを使いこなすといった自衛的な手段を住民側も心得ておくべきでしょう。

市長

角尾彰央理事長はじめ市民団体の皆様のお話、また現地で支援活動にたずさわった当市消防職員の報告に接して思うことは、こういった広域災害におけるボランティア・グループのめざましい活動ぶりです。しかし今回指摘された部分としては、そういった方々を的確に指揮・誘導するあり方に若干不備があり、救援物資の配置等にも時と

して混乱があったことを聞いております

そうしたことから、災害時における正しい情報の確保・伝達の重要性があらためて見直されたように思われます。本市では防災無線が既に稼働しておりますが、さらに市内全域をカバーできるようその整備を推し進めていく方針です。

理事 長

いまの市長のお話にありましたように、現地で活動にあたっても、正しい情報伝達や広報が当市にあるような施設を使っておこなわれていたらな…と思う場面は何度もありました。せっかく給水車が到着しても、呼びかけの手段が限られているためにそのことを知っている人と知らない人とで不公平が生じ、あらたな諍いや不信感を生み出すものになってしまう…といったことを経験すると、正しい情報・広報を確保することの大切さを実感します。

市 長

このたびの大震災とその後の有りようをあらゆる意味で貴重な教訓とさせていただいて、緻密にして大胆な発想の転換を随所に盛り込みながら、当市の実情にマッチした防災計画をまとめ上げたいと念じております。そのなかでは緊急医療などについても、関係諸機関と連絡調整をとりながら体制づくりをすすめております。

理事 長

この問題について最後の市民の側から、ボランティアとして活動する側からの心構えとして肝に銘じておきたいと思っております。それは受け入れていただく行政の側に対し、自分たちの食べるもの、泊まる場所、といった余計な負担をかけさせないということです。自分たちのことはすべて自分たちでまかなえますから、なにかお手伝いできることを仰言って下さい…というのが、ボランティアとして活動するうえでの鉄則だと考えます。そういう心構えで臨んではじめて行政との信頼関係が生じ、より実効的な協力関係を築くことができるのではないかと思うのです。

4. 緑の啓蒙運動・自然との関わりについて

コーディネーター

当市におきましては市民桜まつりや“全国都市緑化フェア”をはじめ、幾多の自然環境に大切さ・とうとさをうったえる事業を成功させてきました。相模原JICにおきましても毎年なんらかのかたちで緑の啓蒙運動を展開してきております。

市長のお考えのなかで現在の相模原の自然環境についてどのような認識をもたれていらっしゃるか、また今後こうした緑化啓蒙運動をどのようにすすめていかれようとしておられるのか、お話をお伺いしたいと思います。

市 長

古来、相模野の大地は一面の緑におおわれていました。しかし人口が増加し家屋が立ち並び、あるいは産業が興って工場が進出してくるようになれば、どうしても緑地

は減少していきます。それでもなんとか身の回りに緑を絶やさないようにしようというのが市民の一致した願いであり、その気持ちのあらわれがさまざまな緑化事業に結実していったのだと考えます。

もちろん一過性のイベントにとどまらず、公有地・私有地を問わずあらゆるひたむきな努力が続けられております。市民の皆さんは庭に草木一本植えることから、ひいては拘束の度合いのつよい“首都圏特別緑地保存区域”という法律の趣旨を受け入れていただいたり、また行政としましては大規模な街路樹の形成をはかることから、河川沿岸の緑地、横山丘陵の緑地…と、地権者のご理解を得ながら緑地保全にま正面から取り組んでおります。

緑化フェアを契機とした集中投資による公園の整備も、大規模な街路樹の形成も、出来上がればおしまいという性質のものではなく、かなりその後の手入れ・保守の部分にお金のかかることではあります。しかし県外や外国のお客様をお招きしたときに、市内の豊富な緑に羨望とお褒めの言葉をいただくことが多く、市民運動に支えられたこの地道な努力の成果は市民全体の誇りとすることができると思います。

理事長

相模原J.Cの本年度のスローガンは“守り育もう みどり豊かな相模原 上げよう まちづくり ひとづくり”でありまして、その趣旨にのっとってさる7月8日、麻溝公園にて「わんぱくグリーンフェスティバル」を開催致しました。

当日は天候のわるいなか、600名もの子供たち・親御さんが集まって下さり、どじょうやザリガニ、かぶと虫を手にとったり小鳥の巣箱かけを行なって、半日を有意義にすごすことができました。きれいに整備された公園をただ眺めるだけでも自然の美しさは理解できますが、もっと踏み込んでもっと能動的に、昔どろんこ遊びなどによって無心に自然とたわむれた時の楽しさ、自然というもののかけがえのない素晴らしさを、こうした事業を通じてより多くの方たちに体感していただけたら…という意図が叶えられたように思います。

市長

それはたいへんけっこうな試みであったと思います。街路樹を植えるということにつきましても沿道にお住まいの方で、なかにはいろいろご事情によって迷惑に感ずる方もおられます。それを公共のため…ということでご理解願っているわけですが、J.Cの皆さんのそうした試みによって、子供のときからそういう自然の素晴らしさに接する機会が与えられれば、おのずと自然をいつくしみ育てる心も芽生えて社会全体がうるおいのあるより良い方向に進んでいくことでありましょう。

理事長

先ほどもふれましたが、市民桜まつりがもうすっかり市民のあいだに定着して軌道にのったと思われる現在、J.Cとしましてはよりこちらのグリーンフェスティバルのほうに力を注いでいこうと考えております。相模川クリーン作戦もそうですが、

独自にいろいろな活動を展開しているグループの方々にも呼びかけて、相互に協力し合いながら自然を緑を大切にしていこうという機運を盛り上げていけたらな…と思うのですが、市長におかれましてはどうお考えでしょうか。

市長

街路樹や緑地整備が単発のものでなく継続して手間をかけお金をかけていかななくてはならないように、ＪＣの皆さんをはじめとしたそのような活動も、継続して取り組んでいく姿勢が肝要ではないかと思われます。規模の大小にこだわることなく地道に努力を重ねていくことに意義があるのではないのでしょうか。

理事長

先日の麻溝公園でも子供たちの喜ぶさまを見ていて実感しましたが、子供たちにもっと自然とふれあう場を提供していかななくてはならないな…と思いました。そのハード面の整備はある意味で行政の力にたよらなくてはなりません、それを上手に利用しながらそうした素晴らしい世界への扉をひらき、子供たちをいざなう役目は、私たち市民の側に課せられた宿題だと思います。私たちも真剣に考えていきますので、どうか市長におかれましてもご協力のほどよろしくお願い致します。

5. これからのＪＣに期待すること・望むこと

コーディネーター

それでは最後のテーマとなります。私たちのほうからのこういう言い方は失礼かとも存じますが、これからの相模原ＪＣに期待すること、また望むこととしてどうかお話いただけますでしょうか。

市長

年齢制限のある若い人たちの集団であるＪＣの皆さんが、これまでも若々しい視点で物事を見据えて、しかもむやみに背伸びすることなく地に足をつけた活動を展開してこられたことは高く評価できるのではないかと思います。これは私の考えばかりでなく、市民の皆さんそれぞれがそのように感じておられることであります。

また私なりにつよく印象づけられていることは、ＪＣの皆さんが目先の利害損得に捉らわれない、真にその場その時にふさわしい正しい世論の潮流をリードされてきたという事実です。具体的には昭和40年から50年にかけて人口が20万人も増加し、その当時行政としてもっとも力を傾注すべきことは、義務教育対象児童のための学校の整備でした。ところがなかには偏狭な利害関係に捉われて、道路・鉄道などの整備を言い募る声もありました。それはそれでももちろん大切なまちづくりの要素ではありますが、やはり限られた予算のなかでの優先順位があります。そうした状況においてＪＣの皆さんは、常に合理的で正しい行動指針を示してこられたように思います。行政にとりましてもそれは大いに心づよく頼もしい存在でありました。

これからもＪＣの皆さんは若々しい発想と感性で、なにが正しくてなにが必要であ

るかをよく認識され、言うべき時は勇気をもって行政にも遠慮なく発言していただき、また良き市民として健全な良識を示していただくことを期待致します。

理事長

J Cの基本理念は“明るい豊かな社会”の実現にあります。そのためにいま私たちはこの相模原というまちで何が出来るかをたえず自ら問いつづけております。その理想にアプローチしていくための手法として、社会開発と自己開発というふたつの柱がありその視点にたって勉強し行動していく団体がJ Cであります。

J Cの特質は若さと情熱であり、それに裏打ちされた行動力には自信をもっております。しかしそこには若さゆえの未熟さもまた入り込む余地があり、そうしたウィークポイントを人生の先達としてのお立場から市長に糺していただけたら、私たちにとりましてこのうえない幸せであります。どうかご遠慮なくご叱声を賜りたいと思えます。

市長

J Cの皆さんが前向きに取り組んでこられた問題意識——相模原市をめぐる交通問題、環境問題、さらに教育・文化の問題等々、どれもが市政のかなめであり、本市においてなにが必要か何が重要であるかしっかりと論議されたものでありました。私のほうでああしなさいこうしたほうがと指図するほどもなく、皆さんが自主性にもとづいて議論し行動していくありかたを私はこれからも信頼しております。

実例を申し上げますと本年11月にOPEN予定の博物館の一件も、市議会への直接の建議ということではなくても、折にふれメンバーの方やOBの方々からその必要性をお聞きしてきたものであります。

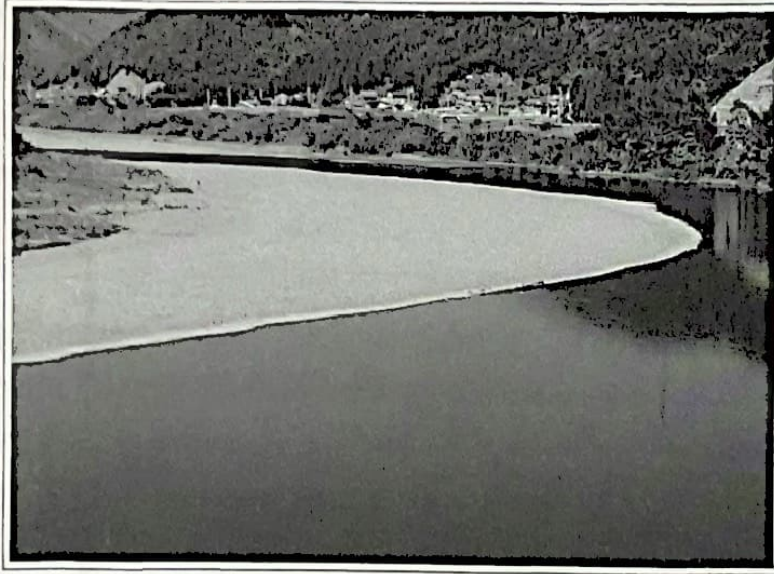
行政者である私としましては、特定のカラーに染まることのないJ Cの健全で良識ある世論のリード、先ほどのまちづくりの理念に沿った皆が幸福になるような方向性のある議論、こうしたことを何より大切にしていきたいと申し上げます。

理事長

本日いろいろお話をお伺いし、市長の語られた一語一語を今後のJ C運動のなかに反映させながら、より市民の幸せに参与し相模原市全体の発展に貢献できるように微力ながら頑張っていきたいと考えております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

本日はお忙しいなか長時間にわたって有意義なお話をいただき、ほんとうにありがとうございました。

相模原の自然



相模川

(社)相模原青年会議所30周年記念誌

発行日 1995年9月9日
発行先 (社)相模原青年会議所
相模原市中央3-12-3
発行責任者 理事長 角尾 彰 央
編集スタッフ 30周年実行委員長 細谷 政 幸
担当 副実行委員長 永瀬 泰 敏
記念誌部会・部会長 佐藤 光 秀
副部会長 萩原 明 人
副部会長 長谷川 太 一
林 義彦 田口 直樹
三ツ木圭三 岩井健二郎
鹿島 敏裕 比嘉賢太郎
清水 寿人 広部 徹也
河本 俊二 黒沼 清治
石井 隆雄 唐橋 一男
田原光太郎 嶋津 重忠
デザイン・版下・製版 (有)アトリエいちのへ
印刷・製本 (有)勝文堂印刷

発刊に際しまして、慎重に編集・校正等を致しましたが、
万一誤字・脱字等ありましたらお詫び申し上げます。

Established 1965
SAGAMIHARA JC 30th ANNIVERSARY



自然・情熱

社団法人 相模原青年会議所

創立30周年記念誌